

環境報告書 2020

— 環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場を目指して —



多摩ニュータウン環境組合 多摩清掃工場

目 次

	ページ
私たちの取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・	2
第1章 事業概要	
1 施設のあらまし・・・・・・・・	4
2 環境保全コスト・・・・・・・・	15
3 私たちの組織・・・・・・・・	16
第2章 環境についての取り組み	
1 環境方針・・・・・・・・	18
2 環境負荷（単年度、推移）・・・・・・・・	19
3 環境対策・・・・・・・・	30
4 発電・・・・・・・・	40
5 熱の供給・・・・・・・・	40
6 環境負荷を減らす取り組み・・・・・・・・	41
7 環境活動・・・・・・・・	43
8 安全衛生などの取り組み・・・・・・・・	45
9 中期経営計画ビジョン2022について・・・・・・	47
第3章 コミュニケーション	
1 環境情報の公開・・・・・・・・	49
2 環境に関して寄せられた意見、要望等・・・・・・・・	50
3 施設の見学・・・・・・・・	51
4 社会的活動・・・・・・・・	52
5 多摩ニュータウン環境組合の事業のあゆみ・・・・	60
巻末資料	
・ 案内図、編集・発行・・・・・・・・	61
・ アンケート・・・・・・・・	62

私たちの取り組み

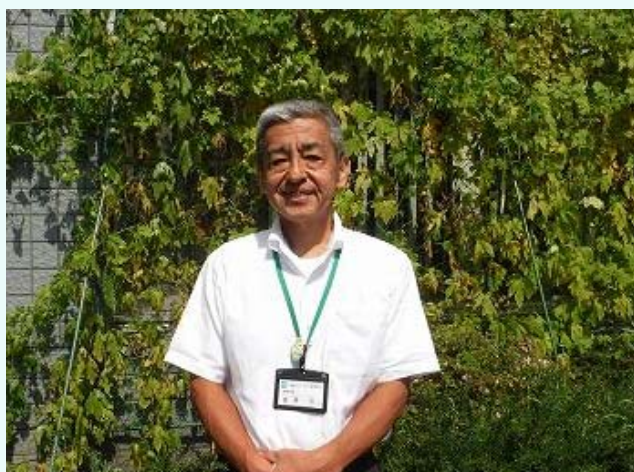
気候変動が及ぼす影響の大きさから、改めて環境問題がクローズアップされています。

多摩ニュータウン環境組合 多摩清掃工場でも安全で安定したごみ処理を進める中で、環境への負荷の低減に係る継続的な取り組みが求められています。

多摩ニュータウン環境組合では、多摩地域の清掃工場として初めて、平成 15 年 3 月に ISO14001 の認証を取得しました。環境組合及び関係者が一丸となって、「環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場」を目指し、環境マネジメントシステムの効率的運用と継続的改善を推進しています。

令和元年度は、プラント設備等を適正に維持管理するための機器補修工事を行うほか、焼却灰のうち貴金属の含有率が高い「落じん灰」を回収し資源として活かすため、落じん灰搬送設備を設置し、さらなる資源化と最終処分場への搬出抑制を図りました。

多摩ニュータウン環境組合は、今後も環境負荷への低減を継続し、貴重な最終処分場を次世代に引き継ぐための役割を果たすとともに、最大限資源化に取り組むことで持続可能な循環型社会に寄与できるように努めて参ります。



令和 2 年 10 月

多摩ニュータウン環境組合

事務局長 富澤 浩

報告する期間

平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日まで

準拠したガイドライン

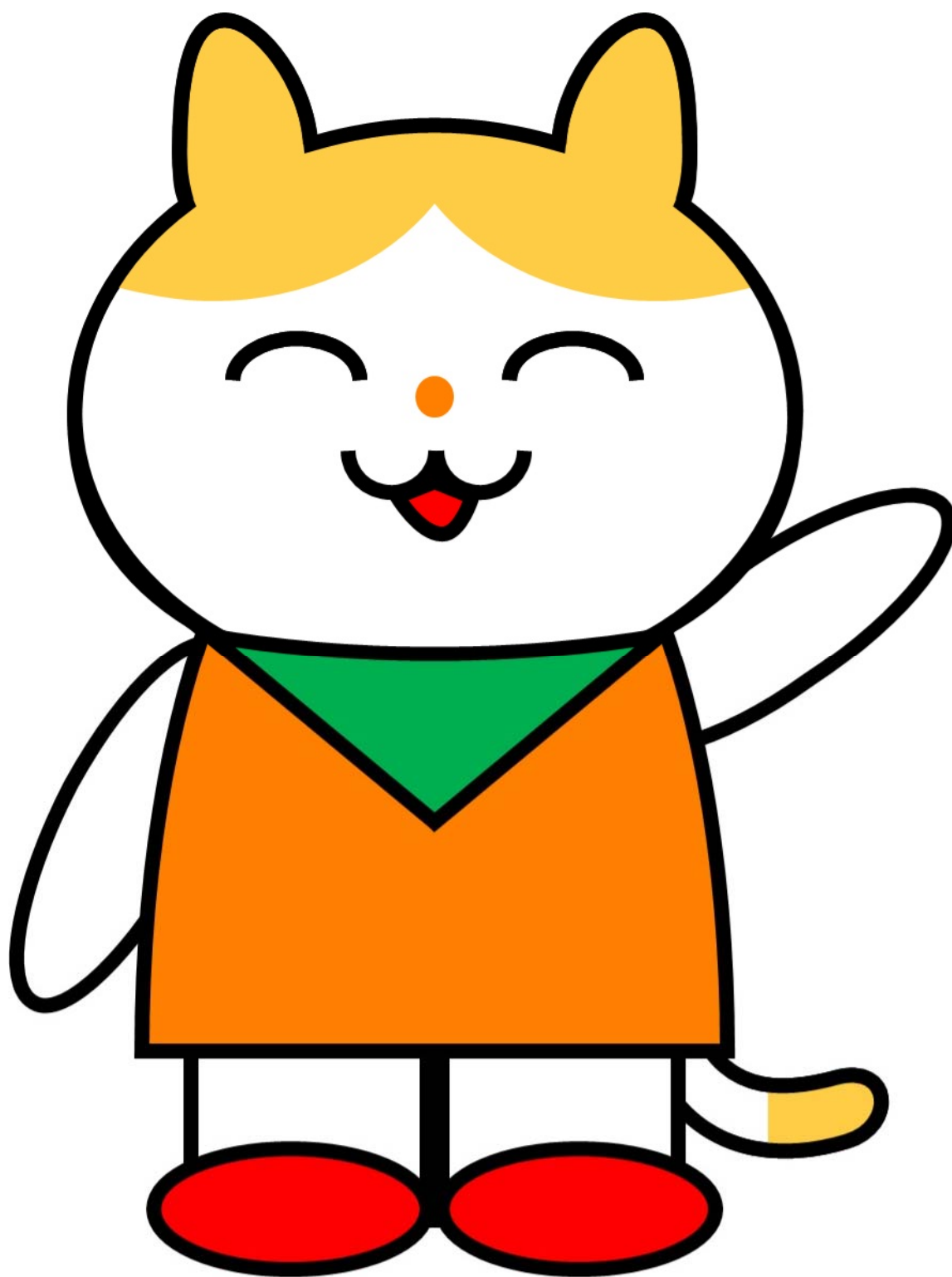
「一般廃棄物処理施設向け環境報告書ガイドライン 2005 年度版」東京都環境局

「環境報告ガイドライン 2018 年度版」平成 30 年 6 月 環境省

報告対象分野

環境的側面・社会的側面

第1章 事業概要



1. 施設のあらまし

多摩ニュータウン環境組合は、八王子市及び町田市の一部の区域並びに多摩市全域のごみ処理等を目的に設立された特別地方公共団体（一部事務組合）です。

多摩清掃工場は、地元地域にお住まいの方々のご理解とご協力により昭和 48 年から稼働しました。現在の施設はいわゆる 2 期施設として、平成 10 年に可燃ごみを処理する「焼却棟」を、平成 14 年には不燃ごみ、粗大ごみを処理する「不燃・粗大ごみ処理棟」を建設し、以来、効果的な余熱の有効利用や資源化等ができる施設として、周辺環境や公害防止を最優先に、環境啓発施設を併設した環境にやさしい中間処理施設として稼働を続けています。

施設の概要



名 称：多摩ニュータウン環境組合 多摩清掃工場

所 在 地：東京都多摩市唐木田二丁目 1 番地 1

敷地面積：約 35,600m²

構成施設：管理棟、焼却棟、不燃・粗大ごみ処理棟、リサイクルセンター

■ 管理棟

工 期：着工 平成 12 年 2 月 竣工 平成 14 年 3 月

建築構造：鉄骨造（地上 3 階）

建築面積：約 840m² 延床面積：約 2,500m²

■ 焼却棟

工 期：着工 平成 6 年 7 月 竣工 平成 10 年 3 月（その 1）
平成 14 年 3 月（その 2）

建築構造：鉄骨鉄筋コンクリート造（地下 1 階・地上 6 階）

建築面積：約 6,400m²

延床面積：約 17,500m²

処理能力：400 t / 日（200 t / 日・炉×2 炉）

発電能力：8,000kW

■ 不燃・粗大ごみ処理棟

工 期：着工 平成 11 年 7 月 竣工 平成 14 年 3 月

建築構造：鉄筋コンクリート造（一部 鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造）
（地下 1 階・地上 5 階）

建築面積：約 4,500m²

延床面積：約 12,400m²

処理能力：90 t / 5h（不燃系：40 t / 5h×2 系列 粗大系：5 t / 5h×2 系列）

■ リサイクルセンター

工 期：着工 平成 11 年 7 月 竣工 平成 14 年 3 月

建築構造：鉄筋コンクリート造（地上 3 階）

1 階：エントランスホール、展示ホール、リサイクル工房、事務室

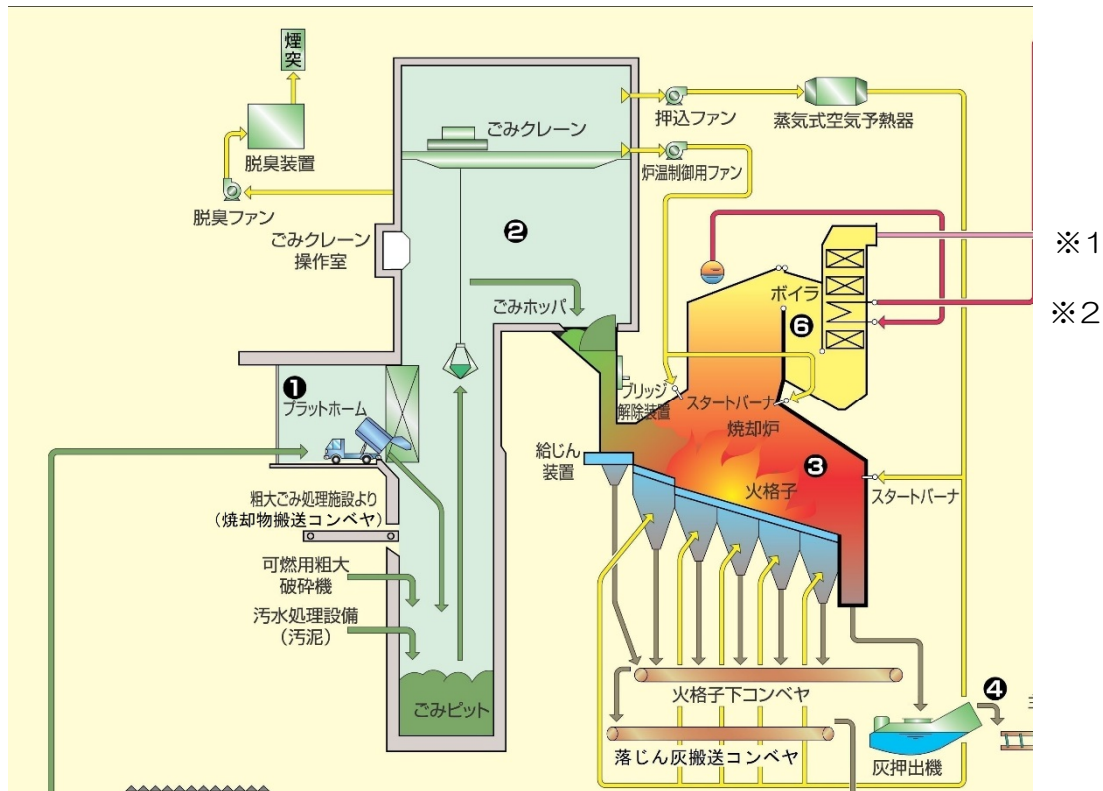
2 階：多目的室、ホール

3 階：エレベータホール

建築面積：約 1,200m²

延床面積：約 1,980m²

🔥 🔥 🔥 焼却施設説明（１） 🔥 🔥 🔥



① プラットホーム

収集車で搬入した可燃ごみは、計量した後、プラットフォームからごみピットへ投入します。バンカーゲートは車両が近づくと自動的に開くセンサーを装備しています。また、臭気の外部への漏洩を防ぐために、室内を負圧にするとともに出入り口にはエアカーテンを設けています。



② ごみピットとごみクレーン

ごみピットの容量は 7,200m³ です。約 3 週間分のごみを貯蓄できます。ごみクレーンのごみピット内のごみを攪拌し、ごみホッパへごみを投入します。これらの工程は全自動でも行えます。また、ごみピットの臭気は吸引し、燃焼用空気として炉のなかで燃焼・分解して脱臭します。



③ 焼却炉

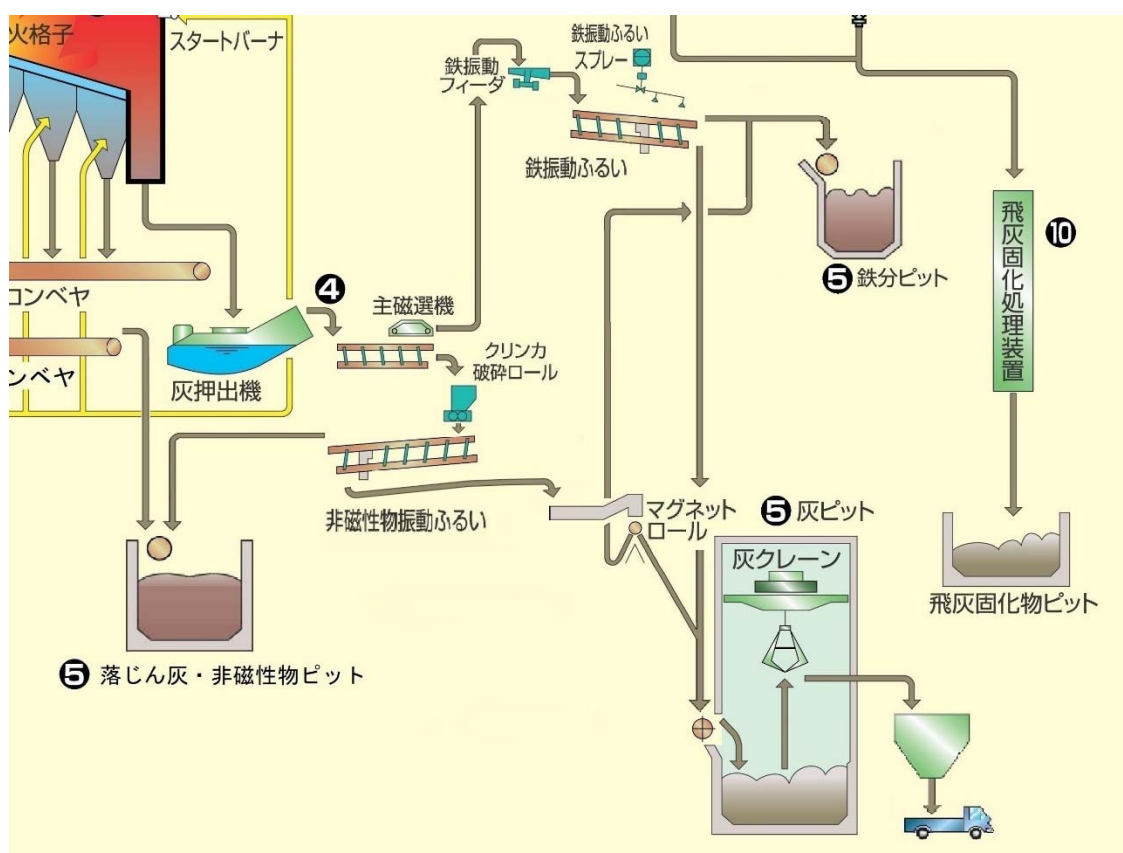
焼却炉はごみを効果的に混合・攪拌できる階段状火格子です。炉内の燃烧温度が850℃以上となるように自動燃焼制御して、ダイオキシン類などの発生を抑制しています。また、アンモニア吹き込みによる窒素酸化物（無触媒脱硝）処理設備も備えています。



⑥ ボイラ

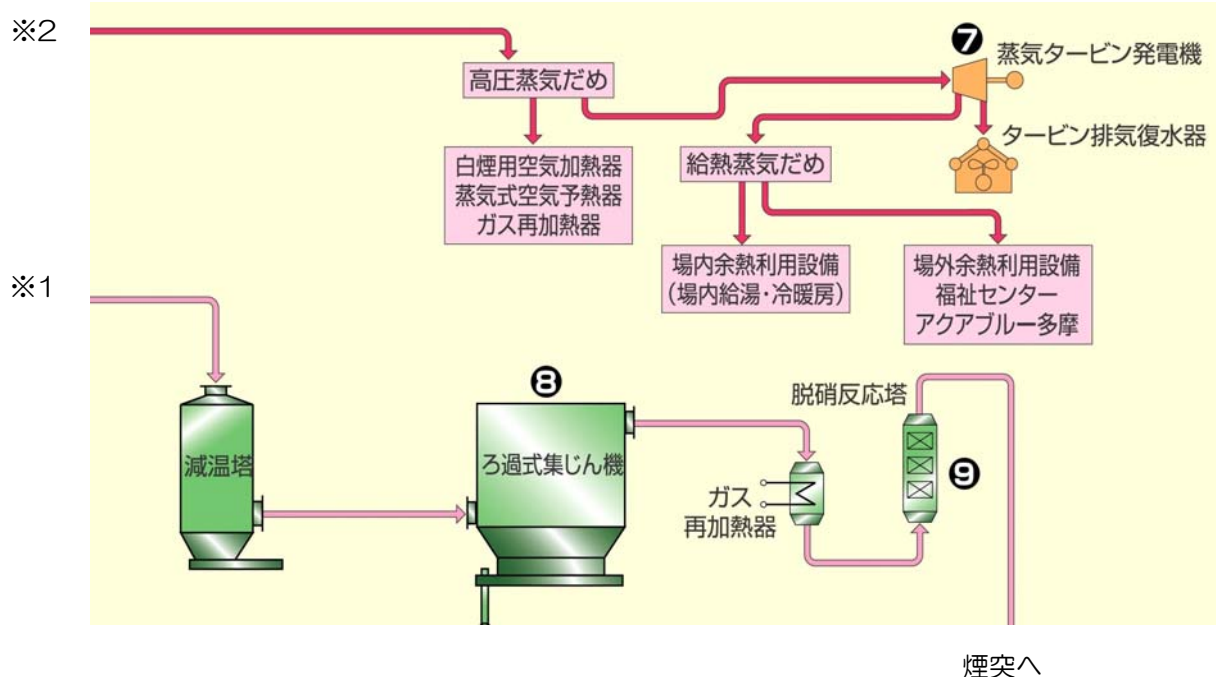
ごみが燃焼するときの熱を有効利用するために、自然循環式ボイラを設けています。燃焼エネルギーを効率よく回収することができ、更にボイラで熱を吸収することで排ガスの温度を下げます。

🔥 🔥 🔥 焼却施設説明（2） 🔥 🔥 🔥



	④ 灰押出機 焼却炉から排出される焼却灰は、灰押出機で消火・冷却します。つぎに、灰と異物を分けるため、磁選機で鉄を回収後、破砕機・ふるい等にかけて、鉄分と非磁性物（非鉄金属）を分離回収します。また、火格子下コンベヤに落下した落じん灰も回収します。
	⑤ 灰ピット/鉄分ピット/落じん灰・非磁性物ピット 鉄分・非磁性物・落じん灰を分離した焼却灰は、灰ピットに送ります。焼却灰の重量は、燃焼前の約 1/10 になります。灰ピットの容量は 440m³、鉄分ピットは 50m³、落じん灰・非磁性物（非鉄金属）ピットは 70m³ です。
	⑩ 飛灰固化処理装置 ろ過式集じん機で捕集したばいじん（飛灰）は、セメントや薬品で固めて有害物が溶け出さないようにしてから、飛灰固化物ピットに送ります。飛灰固化物ピットの容量は 300m³ です。

🔥 🔥 🔥 焼却施設説明（3） 🔥 🔥 🔥





⑦ 蒸気タービン発電機

高温高圧蒸気によって、最大 8,000kW の発電を行うことができます。発電した電力は工場内で使用するほか、電力会社に売電します。なお、その他の蒸気は、給湯や冷暖房の熱源として利用しています。



⑧ ろ過式集じん機

減温塔では、ダイオキシン類の再合成防止や効率的な酸性ガス除去のために、ボイラで熱回収されたあとの排ガス温度をさらに下げます。そして、ろ過式集じん機では、薬品によって酸性ガスの除去を行い、特殊な布のフィルタでダイオキシン類やばいじん（飛灰）を除去します。



⑨ 脱硝反応塔

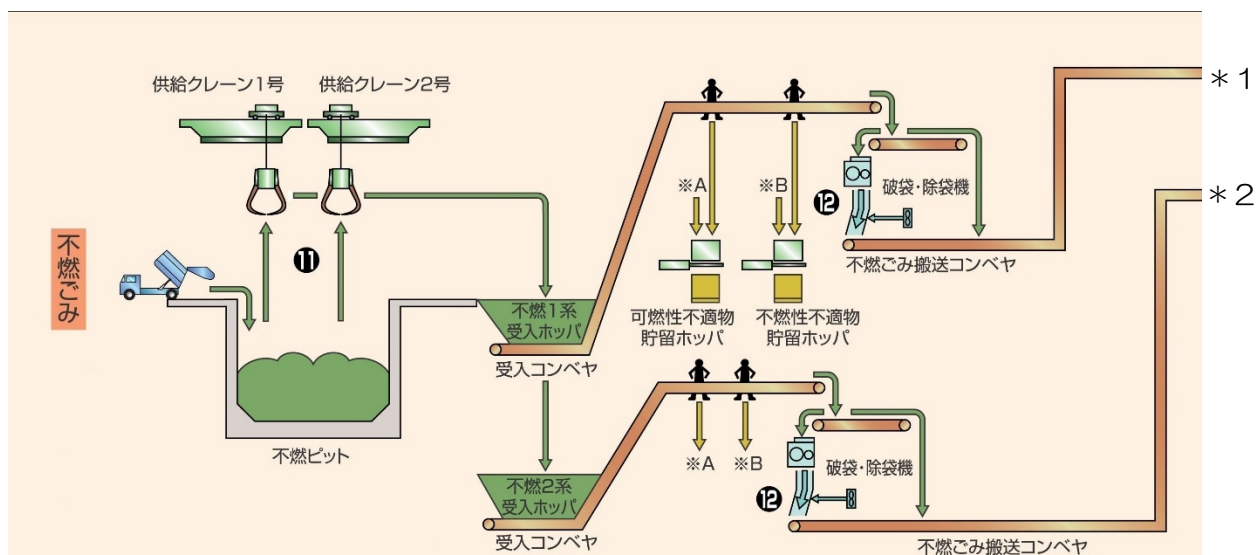
排ガスに含まれている窒素酸化物を、触媒と気化したアンモニア水の働きによって除去します。併せて、ダイオキシン類も分解除去します。

平成31年4月～令和2年3月

可燃ごみ処理費：20,279円／ごみ1トン
（ごみの収集運搬や埋立処分費用は含まれていません。）

可燃ごみ処理費は、歳出決算の可燃ごみ処理費、議会費、組合管理費及びごみ搬入量に占める可燃ごみ量の割合を基に算出されたものです。可燃ごみ量及びごみ搬入量は、構成市の処理区域内の搬入量を用いています。

不燃ごみ処理施設説明（１）



⑪ 粗大ピット/不燃ピット/供給クレーン

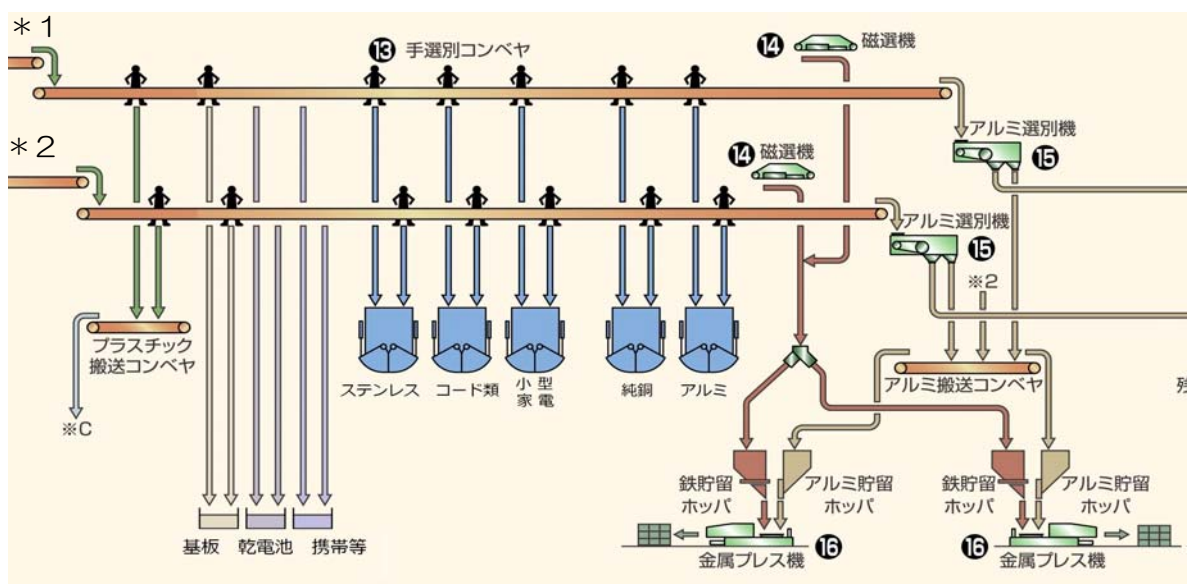
搬入された不燃ごみは不燃ピットに投入します。ピットのごみは供給クレーンで受入ホッパに移します。資源回収されて処理した不燃ごみは、粗大ピットに搬送されます。



⑫ 破袋機/除袋機

不燃ごみは「ごみ袋」に入った状態で搬入されるので、選別し易くするために機械で「ごみ袋」を破り、中身を取りだします。また、「ごみ袋」は機械で分離します。

不燃ごみ処理施設説明（２）



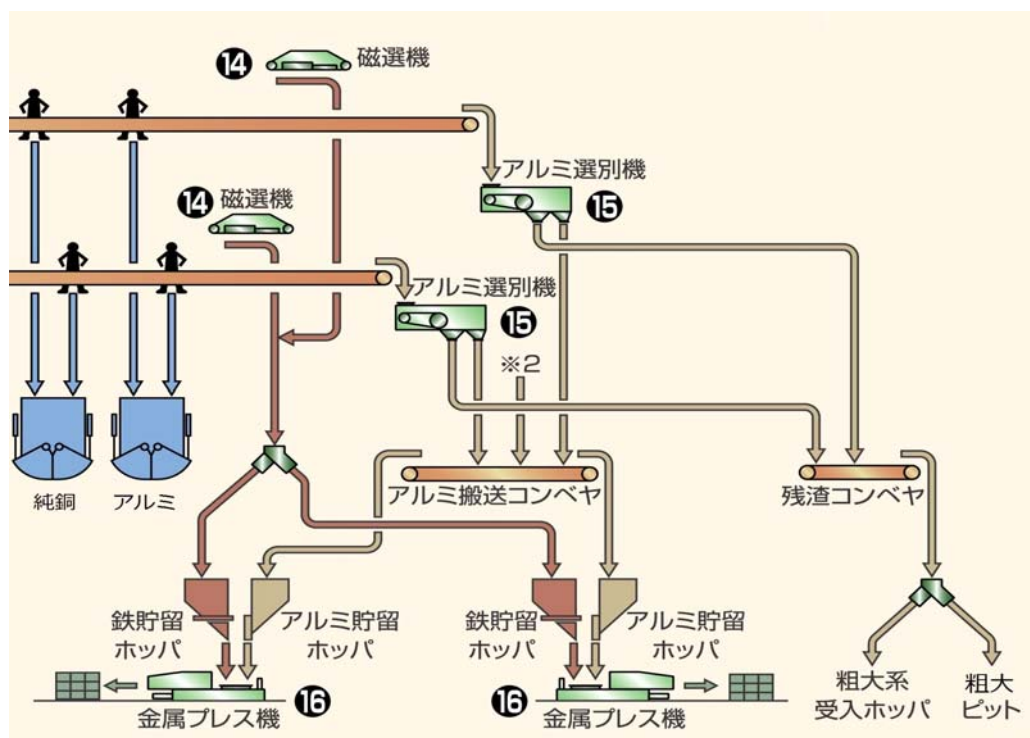
⑬ 手選別コンベヤ

不燃ごみに混入した乾電池やおもちゃ等に入った乾電池を取り除くほか、基板・携帯電話・小型家電・コード・金属類等の資源もきめ細かく選別回収をします。



⑭ 不燃系磁選機

不燃ごみの中に混入している鉄を、磁力で選別回収します。



⑮ 不燃系アルミ選別機

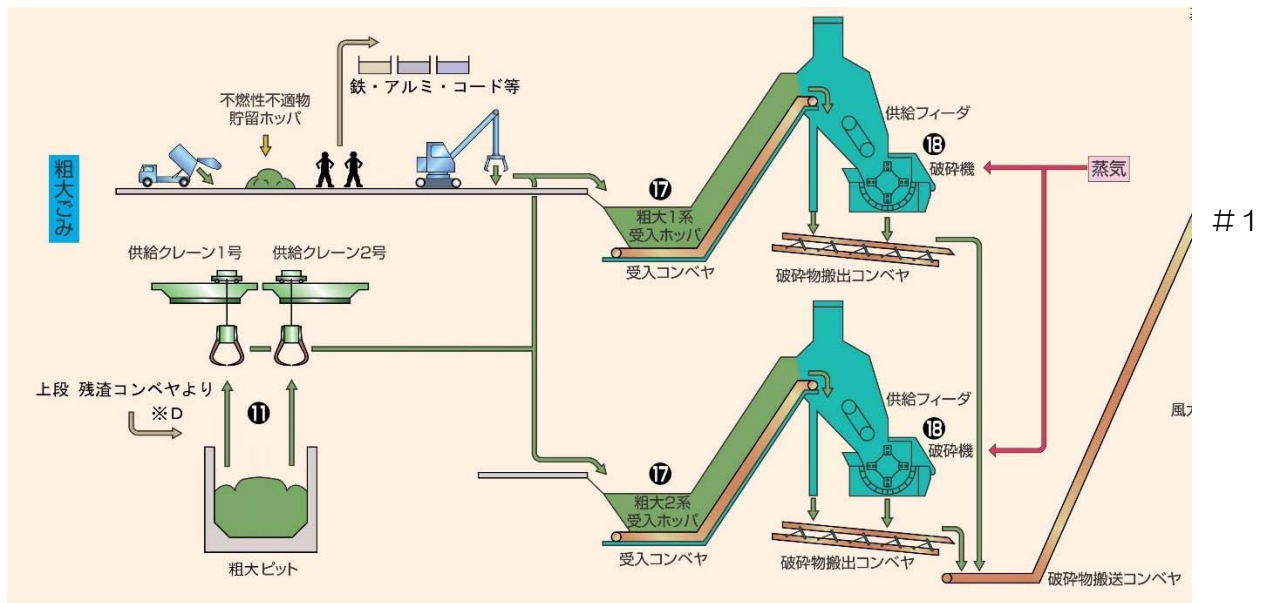
不燃ごみの中に混入しているアルミ缶等にうず電流を発生させて前方に跳ね飛ばして選別回収します。



⑯ 金属プレス機

選別回収した鉄とアルミを、それぞれ運搬しやすいかたちに圧縮成形します。

粗大ごみ処理施設説明（１）



17 粗大系受入ホッパ

不適物を除去した粗大ごみや資源回収して処理された不燃ごみを受入ホッパに投入します。

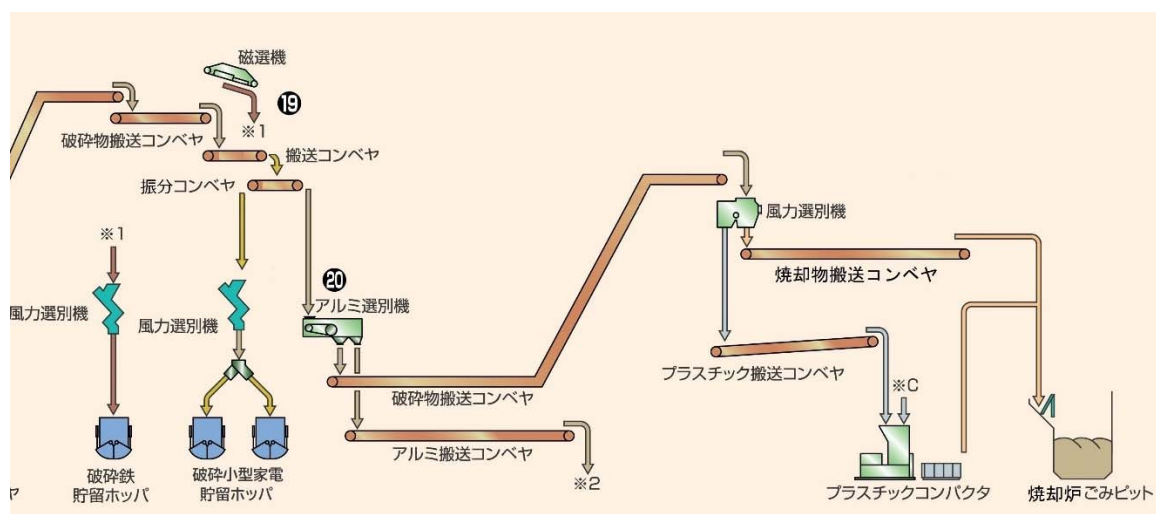


18 破碎機

粗大ごみを高速で回転するハンマーの強力なパワーで、ほぼ 15cm 以下に破碎します。破碎機の中を蒸気で満たし、酸素濃度が下げることで、スプレー缶などの可燃性ガスによる爆発を防止しています。

粗大ごみ処理施設説明（２）

1



19 磁選機

破碎した粗大ごみから、磁選機で鉄を回収します。残った可燃物は焼却棟ごみピットに送ります。



20 粗大系アルミ選別機

破碎した粗大ごみに混入しているアルミにうず電流を発生させて前方に跳ね飛ばして選別回収します。

平成31年4月～令和2年3月

不燃・粗大ごみ処理費：71,864円／ごみ1トン
（ごみの収集運搬や埋立処分費用は含まれていません。）

不燃・粗大ごみ処理費は、歳出決算の粗大ごみ処理費、議会費、組合管理費及びごみ搬入量に占める不燃・粗大ごみ、有害ごみ、小型家電量の割合を基に算出されたものです。不燃・粗大ごみ、有害ごみ、小型家電量及び搬入量は、構成市の処理区域内の搬入量を用いています。

2. 環境保全コスト

環境会計ガイドライン2005年版（平成17年2月環境省）の公表用フォーマットの表に準じて作成しました。

単位：円（税込）

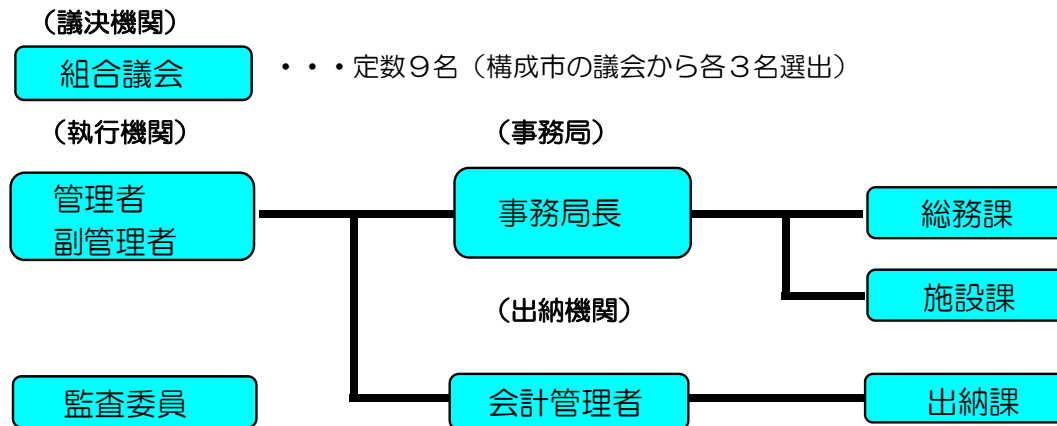
分	類	主	な	取	組	費	用
事業エリア内コスト							
公害防止コスト			公害防止のための薬剤費			55,919,824	
地球環境保全コスト	オゾン層破壊防止のためのコスト		フロンガスの回収・破壊費			0	
資源循環コスト			1廃棄物のリサイクル等費			11,172,442	
			(内訳) 売払い			-28,493,830	
			(内訳) 支払い			39,666,272	
			2廃棄物の処理・処分費			592,570	
管理活動コスト							
環境マネジメントシステムの整備、運用のためのコスト			定期審査・内部監査員養成講習			492,388	
事業活動に伴う環境情報の開示及び環境広告のためのコスト			広報作成・折込 ホームページの保守			1,902,536	
環境負荷監視のためのコスト			環境の調査・法令順守の監視 常時監視用排ガス分析計の保守			13,079,969	
研究開発コスト						0	
社会活動コスト							
地域住民の行う環境活動に対する支援及び地域住民に対する情報提供等の 各種の社会的取組のためのコスト			リサイクルセンター運営費			16,165,306	
環境損傷対応コスト						0	
合計						99,325,035	

¹ 売払い：鉄くず等売却・廃自転車売却・廃油売却・その他雑品売却

支払い：有害ごみ処理・焼却灰運搬費・焼却灰資源化委託等

² 粗大ごみ処理費

3. 私たちの組織



☆総務課

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| (1) 基本的施策の企画及び総合調整に関すること | (12) 財政に関すること |
| (2) 議会に関すること | (13) 職員の人事、給与及び勤務条件等に関すること |
| (3) 監査に関すること | (14) 職員団体に関すること |
| (4) 情報公開に関すること | (15) 出納に関すること |
| (5) 条例等の制定及び改廃に関すること | (16) 契約に関すること |
| (6) 関係市との連絡調整に関すること | (17) 財産に関すること |
| (7) 消防及び防災の計画に関すること | (18) 施設更新に関すること |
| (8) 広報及びホームページに関すること | (19) 周辺住民との連絡調整に関すること |
| (9) 施設の公開及び見学に関すること | (20) 事務局の庶務に関すること |
| (10) リサイクルセンターの運営に関すること | (21) その他、他の課に属さないこと |
| (11) 広域支援等に関すること | |

☆施設課

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 施設の設計、施行及び監督に関すること | (4) 施設の公害防止及び環境調査に関すること |
| (2) 施設の維持、管理及び運用に関すること | (5) 廃棄物等の搬入及び搬出管理に関すること |
| (3) 施設の安全管理に関すること | |

☆出納課

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| (1) 現金の出納及び保管に関すること | (6) 課の庶務に関すること |
| (2) 小切手の振り出しに関すること | (7) 支出負担行為に関する確認を行うこと |
| (3) 有価証券、担保物件の出納、保管及び記録に関すること | (8) 組合費の出納に係る証拠書類の審査等に関すること |
| (4) 現金の記録管理に関すること | (9) その他会計管理者の権限に属する事務に関すること |
| (5) 決算に関すること | |

☆工場内で勤務（従事）している人数（令和2年3月31日現在）

- | | |
|--|-----|
| ・多摩ニュータウン環境組合 | 19人 |
| ・施設の運転管理業務を行う受託契約業者【Hit環境サービス株式会社】 | 65人 |
| ・リサイクルセンターの管理・運営を行うNPO団体【東京・多摩リサイクル市民連邦】 | 3人 |

第2章 環境についての取り組み



1. 多摩ニュータウン環境組合・多摩清掃工場 環境方針

基 本 理 念

「環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場」

多摩ニュータウン環境組合・多摩清掃工場は、標記の経営方針に基づき、環境にやさしい安全な清掃工場として、地域から排出されたごみを適正に処理するとともに、焼却により生じたエネルギーを有効に活用し、環境負荷の低減を図るために最大の配慮をいたします。

また、開かれた清掃工場として、環境学習の場や環境関連情報の提供などを行い、より良好な地球環境が実現されるよう地域社会と連携してまいります。

基 本 方 針

多摩ニュータウン環境組合・多摩清掃工場は、この基本理念に基づき、資源循環型社会の実現と、かけがえのない地球環境の将来にわたる保全に寄与することができるよう、全職員をあげて次のことに取り組んでいくことを宣言します。

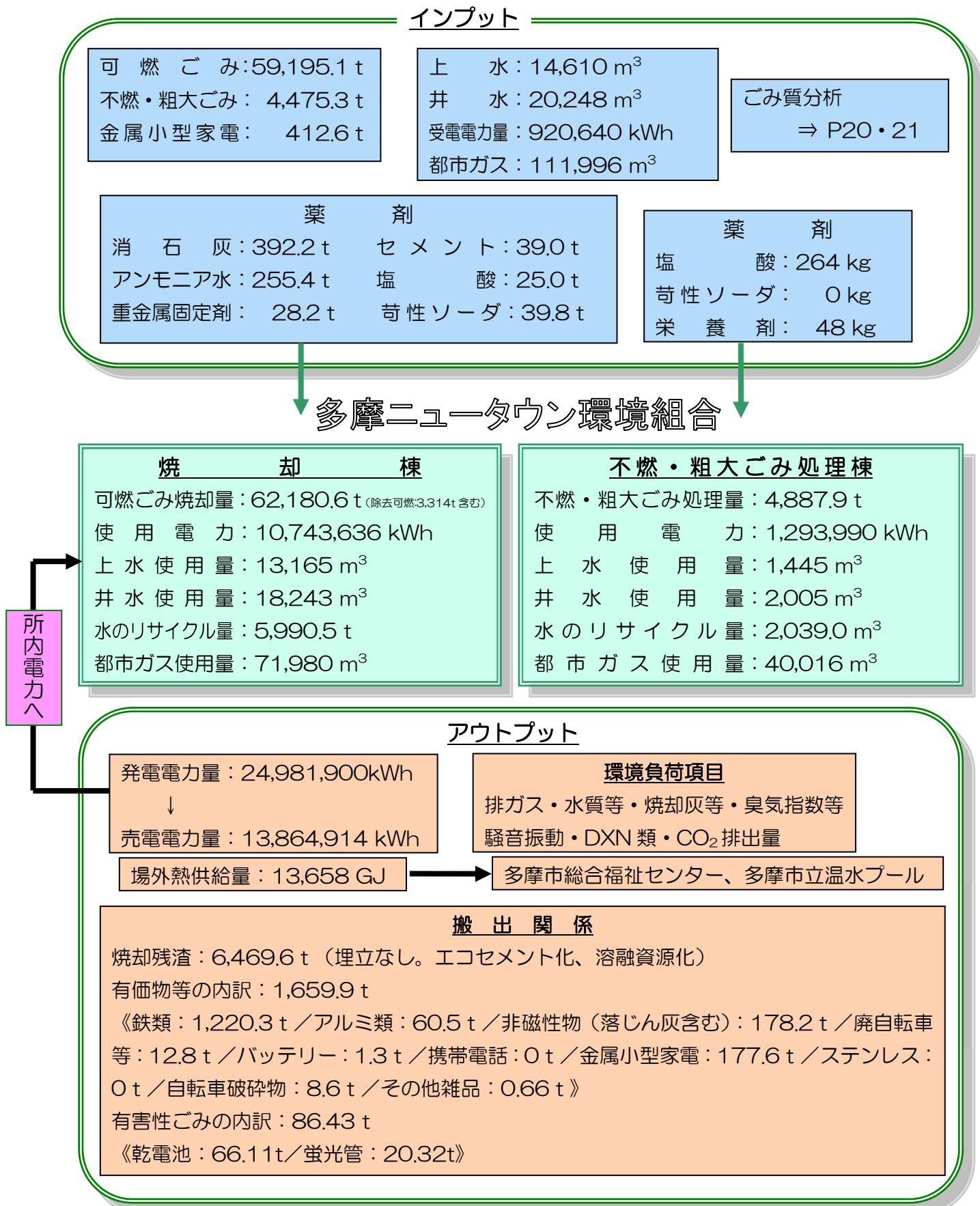
- 1 当工場の運営に関わる環境関連法令を始めとする順守すべき事項を明らかにし、順守します。
- 2 当工場の課題解決や順守事項の達成、環境負荷の低減を図るため環境目標を設定し、実効ある対策を推進するとともに定期的に見直しを行い、継続的改善及び汚染の予防に努めます。
- 3 地域におけるサービスの向上・ごみの減量・リサイクルの活動を支援するとともに、運営及び操業に当たっては気候変動の緩和に向けた地球温暖化対策・省資源・省エネルギー・環境保護施策等を推進します。
- 4 本方針を環境マネジメントシステムにより実施し、維持していきます。
- 5 工場の施設の開放を通じて、児童・生徒等の環境学習など、環境意識の高揚を図る施策を地域社会と連携して推進します。
- 6 この方針を当工場全職員に周知徹底するとともに一般に公表します。

2018年4月2日

多摩ニュータウン環境組合 管理者 阿部 裕行

2. 環境負荷

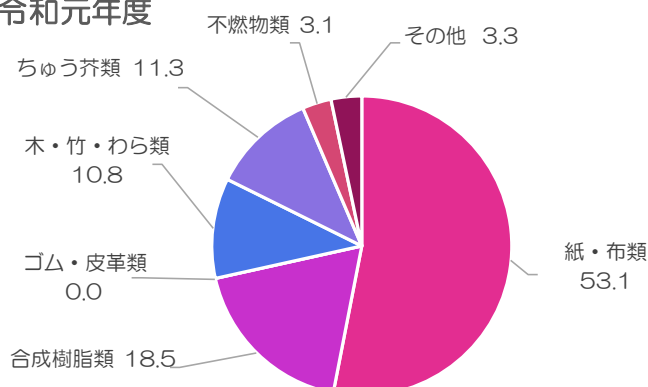
(1) 令和元年度 主要な物質の収支



ごみ質分析結果（焼却棟ごみピット内）

多摩清掃工場で処理している可燃ごみの分析結果です。平成22年度からは、ごみの分別方法が変わり、汚れたプラスチックは可燃ごみに分別されるようになりました。焼却された可燃ごみは、発電などの余熱の利用によりサーマルリサイクルされています。

令和元年度



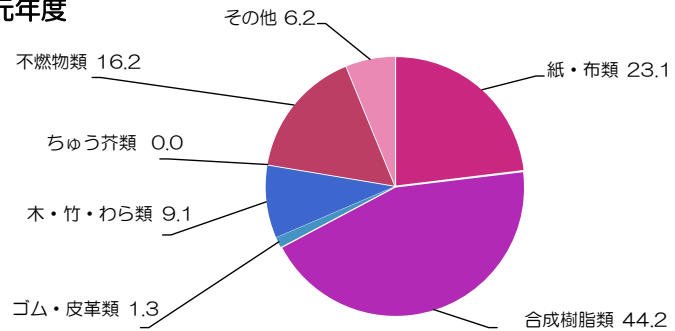
1kcal≒4.186kJ

年 度			平成29年度	平成30年度	令和元年度				
測定年月日			平均	平均	H31.4.5	R1.7.4	R1.10.3	R2.1.7	平均
天 候			—	—	晴	雨	曇	曇	—
気 温			—	—	16.5	26.7	27.2	9.5	—
（ごみの種類成分） （乾ベース）	紙・布類	%	45.6	48.7	51.6	47.8	56.5	56.3	53.1
	合成樹脂類		24.2	21.6	18.6	23.1	17.3	14.9	18.5
	ゴム・皮革類		0.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	木・竹・わら類		14.2	14.7	10.4	12.8	11.6	8.4	10.8
	ちゅう芥類（生ごみ）		10.5	9.3	10.0	10.2	9.6	15.2	11.3
	不燃物類		2.2	2.8	4.3	3.3	2.8	2.1	3.1
	その他		2.7	1.3	5.1	2.8	2.2	3.1	3.3
（ごみの種類成分） （湿ベース）	紙・布類	%	41.4	41.4	42.5	39.7	48.7	41.8	43.2
	合成樹脂類		17.1	14.9	12.6	15.8	11.9	9.7	12.5
	ゴム・皮革類		0.3	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	木・竹・わら類		14.3	15.7	9.5	13.4	11.0	8.8	10.7
	ちゅう芥類（生ごみ）		23.0	24.1	29.2	26.5	24.5	35.5	28.9
	不燃物類		1.2	1.6	2.4	1.9	1.6	1.1	1.8
	その他		2.7	1.3	3.8	2.7	2.3	3.1	3.0
単位容積重量		kg/m ³	173	166	182	165	173	160	170
ごみ成分の3	水分	%	43.6	43.5	45.49	41.30	44.31	47.15	44.6
	灰分（生ごみ）		6.1	6.4	7.12	6.87	6.57	6.16	6.7
	可燃分		50.3	50.1	47.39	51.83	49.12	46.69	48.8
低位発熱量	（計算値）	kcal/kg	2,003	1992	1,860	2,085	1,945	1,818	1,927
		kJ/kg	8,384	8340	7,786	8,728	8,142	7,610	8,067
	（実測値）	kcal/kg	2,333	2297	2,078	2,366	2,198	2,001	2,161
		kJ/kg	9,767	9613	8,699	9,904	9,201	8,376	9,045
灰分（乾燥ごみ）		%	10.91	11.28	13.07	11.71	11.80	11.65	12.06

令和元年度

ごみ質分析結果（不燃ピット内）

不燃ごみに含まれるものは、金属類や小型家電、不燃物類（食器・陶磁器・ガラス製品等）、プラスチック製品などがあります。割合では合成樹脂（プラスチック）が多くを占めています。



1kcal≒4.186kJ

年 度			平成29年度			平成30年度			令和元年度		
測定年月日			H29.7.6	H30.1.5	平均	H30.7.5	H31.1.7	平均	R1.7.4	R2.1.9	平均
天 候			晴	曇	－	晴	晴	－	雨	晴	－
気 温			27.0	6.0	－	28.9	8.0	－	24.5	－	－
ごみの種類成分 （乾ベース）	紙・布類	%	0.0	1.9	1.0	1.1	8.8	5.0	28.6	17.6	23.1
	合成樹脂類		20.1	25.6	22.9	31.8	43.6	37.7	39.5	48.9	44.2
	ゴム・皮革類		1.9	6.2	4.1	3.5	6.0	4.8	2.5	0.0	1.3
	木・竹・わら類		0.0	0.0	0.0	1.1	3.2	2.2	10.3	7.8	9.1
	ちゅう芥類（生ごみ）		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不燃物類		78.0	65.8	71.9	61.8	36.6	49.2	14.5	17.9	16.2
	その他		0.0	0.5	0.3	0.7	1.8	1.3	4.6	7.8	6.2
ごみの種類成分 （湿ベース）	紙・布類	%	0.0	2.0	1.0	1.1	9.2	5.2	31.1	19.0	25.1
	合成樹脂類		20.4	26.6	23.5	32.3	43.8	38.1	38.3	47.9	43.1
	ゴム・皮革類		2.0	6.3	4.2	3.7	6.2	5.0	2.4	0.0	1.2
	木・竹・わら類		0.0	0.0	0.0	1.2	3.4	2.3	10.3	8.3	9.3
	ちゅう芥類（生ごみ）		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不燃物類		77.6	64.6	71.1	60.9	35.6	48.3	13.1	16.5	14.8
	その他		0.0	0.5	0.3	0.8	1.8	1.3	4.8	8.3	6.6
単位容積重量		kg/m ³	169	206	188	146	136	141	127	261	194
ごみの成分	水分	%	0.51	1.84	1.18	1.41	2.90	2.16	9.68	7.49	8.59
	灰分（生ごみ）		78.59	66.98	72.79	63.18	39.48	51.33	19.09	23.07	21.08
	可燃分		20.90	31.18	26.04	35.41	57.62	46.52	71.23	69.44	70.34
低位発熱量	（計算値）	kcal/kg	937	1,392	1,165	1,585	2,576	2,081	3,147	3,080	3,114
		kJ/kg	3,922	5,827	4,875	6,635	10,783	8,709	13,173	12,893	13,033
	（実測値）	kcal/kg	1,619	2,257	1,938	2,775	4,138	3,457	4,325	4,606	4,466
		kJ/kg	6,777	9,448	8,113	11,616	17,322	14,469	18,104	19,281	18,693
灰分（乾燥ごみ）		%	78.99	68.24	73.62	64.08	40.66	52.37	21.14	24.94	23.04

(2) 平成29年度から令和元年度の推移

次の項目について、3ヶ年の推移をグラフ化し、コメントを記した。（但し、リサイクルセンターに係る数値について、一部除いて解析した。）

応援ごみとは、多摩ニュータウン環境組合の処理区域〔八王子市、町田市の一部区域並びに多摩市全域〕以外のごみで「多摩地域ごみ処理広域支援体制協定」に基づき、構成市、他市又は他の一部事務組合の要請により当組合で処理したごみである。

区 分	項 目	30年4月1日	31年4月1日	2年4月1日	グラフ
インプット	処理区域内人口（人）	259,373	259,515	259,805	図-1
	項 目	29年度	30年度	元年度	グラフ
	可燃ごみ搬入量（t）《除去可燃除く》 【処理区域内】	46,218.6	46,207.7	46,568.0	図-2
	可燃ごみ搬入量・八王子市拡大区域ごみ（t） 【処理区域外】	9,586.6	9,646.6	9,406.1	
	可燃ごみ搬入量・八王子市応援ごみ（t） 【処理区域外】	1,514.8	3,703.7	3,221.0	
	不燃・粗大ごみ搬入量（t） 【処理区域内】	4,053.2	4,055.3	4,311.5	図-3
	不燃・粗大ごみ搬入量（t）・八王子市応援ごみ（t） 【処理区域外】	64.3	173.8	163.8	
	不燃・粗大ごみ搬入量（t）・町田市応援ごみ（t） 【処理区域外】	173.9	390.5	0.0	
	金属・小型家電搬入量（t） 【多摩市】	347.1	385.2	412.6	
	受電電力量（kWh）（全体）	1,108,548	596,970	920,640	図-4
	上水使用量（m ³ ）（全体）	17,368	16,609	14,610	図-5
	井水使用量（m ³ ）（全体）	20,052	22,359	20,248	図-6
	都市ガス使用量（m ³ ）（全体:リサイクルセンター除く）	135,865	80,904	111,996	図-7
処理工程	ごみ焼却量（t）《可燃ごみ+除去可燃》	57,760.7	62,248.9	62,180.6	図-8
	焼却炉運転日数（左軸）	313	336	325	図-9
	内 1炉運転日数（左軸）	311	333	314	
	内 2炉運転日数（右軸）	2	3	11	
	全炉停止日数（右軸）	52	29	41	
	炉の立上・立下回数（右軸）	8	6	10	図-10
	使用電力量（kWh）	10,672,372	10,890,968	10,743,636	
	上水使用量（m ³ ）	15,731	15,187	13,165	図-11
	井水使用量（m ³ ）	18,023	20,226	18,243	図-12
	水のリサイクル量（m ³ ）	6,890.6	6,153.5	5,990.5	図-13
	都市ガス使用量（m ³ ）	95,573	41,437	71,980	図-14
	消石灰（t）	397.7	456.2	392.2	図-15
	アンモニア水（t）	218.8	242.9	255.4	図-16
	重金属固定剤（t）	27.5	29.0	28.2	図-17
	セメント（t）	40.9	41.4	39.0	図-18
	塩酸（t）	24.8	26.1	25.0	図-19
	苛性ソーダ（t）	41.5	41.2	39.8	図-20
	ごみ処理量（t）《不燃ごみ+粗大ごみ+小型家電》	4,638.6	5,004.8	4,887.9	図-21
	使用電力量（kWh）	1,312,760	1,322,590	1,293,990	図-22
	上水使用量（m ³ ）	1,637	1,422	1,455	図-23
	井水使用量（m ³ ）	2,029	2,133	2,005	図-24
	水のリサイクル量（m ³ ）	2,077.3	2,082.2	2,039.0	図-25
	都市ガス使用量（m ³ ）	40,292	39,467	40,016	図-26
	塩酸（kg）	305.62	300.9	264	図-27
	苛性ソーダ（kg）	0	19	0	図-28
	栄養剤（kg）	48.5	50.3	48.0	図-29
アウトプット	発電電力量（kWh）（全体）	22,485,210	24,690,840	24,981,900	図-30
	売電電力量（kWh）（全体）	11,608,626	13,074,252	13,864,914	図-31
	場外熱供給量（GJ）（全体）	12,562.3	14,743.3	13,658.0	図-32
	下水放流量（m ³ ）（全体）	14,588	15,520	12,961	図-33
	不燃残渣〔埋立〕（t） 【処理区域内】	0.0	0.0	0.0	図-34
	有価物等（t）	1,624.0	1,742.3	1,659.9	図-35
	有害性ごみ（kg）	81,980	80,120	86,430	図-36
	エコセメント化、熔融資源化、再生砕石化（t） 【処理区域内】	6,763.2	6,572.5	6,469.6	図-37
	エコセメント化（t） 【処理区域外】	203.5	489.3	253.8	

(2) - 1 インプット（施設全体での入力情報）

図-1 処理区域内人口



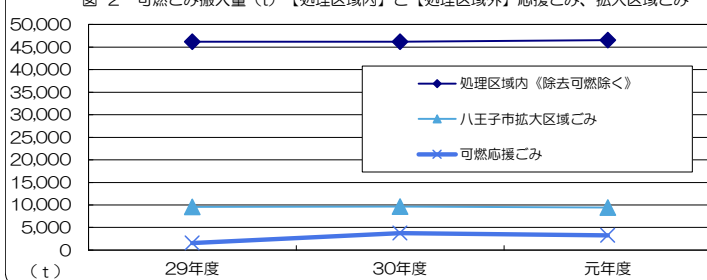
コメント

処理区域は、八王子市、町田市の一部の区域並びに多摩市全域である。また、処理区域内人口は、各年の4月1日の人数である。

処理区域内での各市の内訳（令和2年4月1日現在）

- ・八王子市： 99,167人
- ・町田市： 11,803人
- ・多摩市： 148,835人

図-2 可燃ごみ搬入量 (t) 【処理区域内】と【処理区域外】応援ごみ、拡大区域ごみ



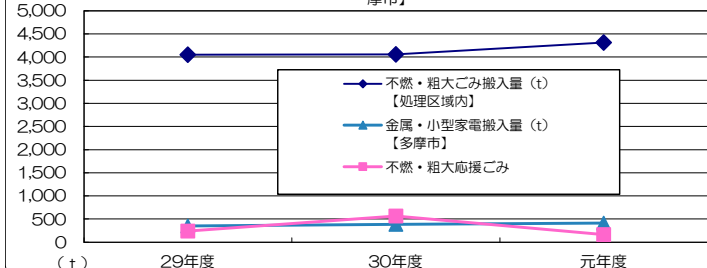
コメント

処理区域内の可燃ごみ搬入量は各構成市のごみ減量化が進み減少傾向にあったが、令和元年度は微増となった。

平成29・30年度及び令和元年度は八王子市より応援ごみの搬入があった。25年度以降、構成市外の応援ごみ搬入はない。

平成30年度は可燃ごみピットの火災により、可燃ごみ11 tを構成市の施設で応援処理をお願いした。

図-3 不燃・粗大ごみ(t)【処理区域内】と金属・小型家電(t)【多摩市】



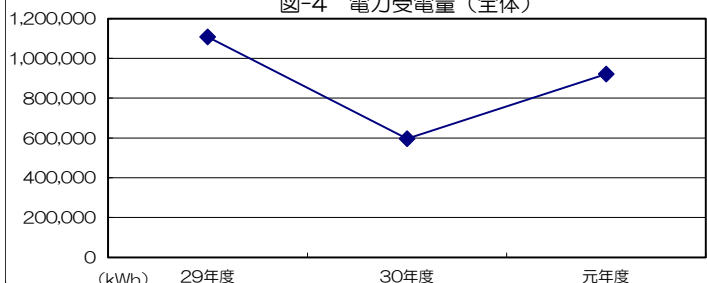
コメント

処理区域内の不燃・粗大ごみ搬入量は各構成市のごみ減量化が進み減少傾向にあったが、令和元年度は増加した。

町田市から平成29・30年度、八王子市から平成29・30年度及び令和元年度に応援ごみの搬入があった。

平成30年度は、可燃ごみピットの火災により、不燃ごみ0.8 t 構成市の施設で応援処理をお願いした。

図-4 電力受電量 (全体)



コメント

焼却炉が全炉停止すると発電ができなくなり、受電電力量が増加する。このため、受電電力量の増減は、焼却炉の全炉停止日数の増減と相関関係にある。

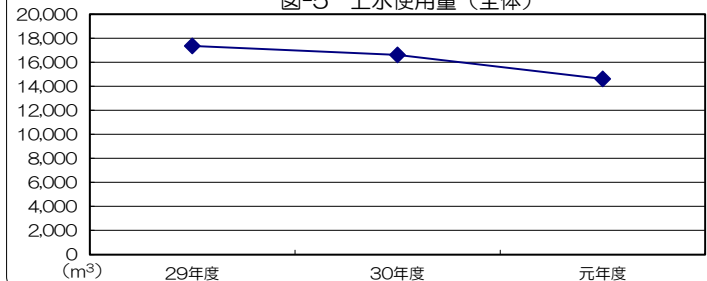
全炉停止日数

平成29年度： 52日

平成30年度： 29日

令和元年度： 41日

図-5 上水使用量 (全体)



コメント

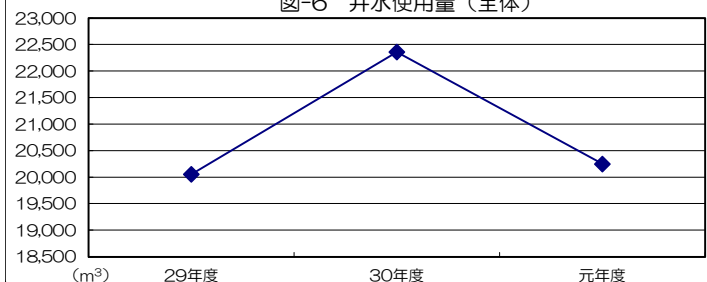
～～～上水の使用の目的～～～

☆焼却棟:生活用水やボイラ用の純水を作る為等に使用

☆不燃・粗大棟:破碎機の防爆用蒸気を作る為に使用

不燃・粗大棟での上水使用量は、全体の上水使用量の9～12%程度のため、増減の推移は、焼却棟の使用量増減と相関関係にある。

図-6 井水使用量 (全体)



コメント

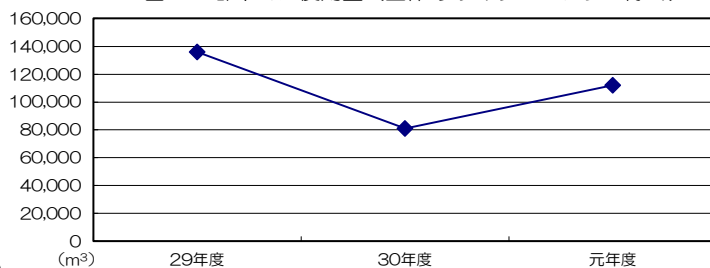
～～～井水の使用の目的～～～

☆焼却棟:機器の冷却や排ガス温度を下げるのに使用

☆不燃・粗大棟:防塵用散水等を使用

不燃・粗大棟での井水使用量は、全体の井水使用量の10～12%程度のため、増減の推移は、焼却棟の使用量増減と相関関係にある。

図-7 都市ガス使用量（全体・リサイクルセンター除く）



コメント

リサイクルセンターの使用量は除いてグラフ化した。

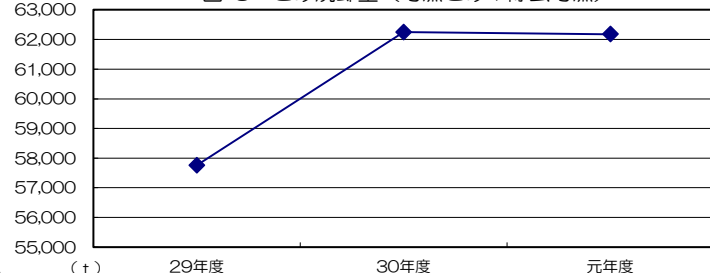
～～～都市ガスの使用の目的～～～

☆焼却棟:主に炉の立上・立下、炉内温度低下時等に使用
☆不燃・粗大棟:破砕機の防爆用蒸気を作る為に使用

不燃・粗大棟の都市ガス使用量は、不燃・粗大ごみの処理量と相関関係にあるが、焼却棟の都市ガス使用量は、焼却炉の立上、立下回数と相関関係にある。また、都市ガスを多く使用する62時間立上げが、平成29年度は3回、令和元年度は1回あった。

(2) - 2 処理工程（焼却棟）

図-8 ごみ焼却量（可燃ごみ＋除去可燃）

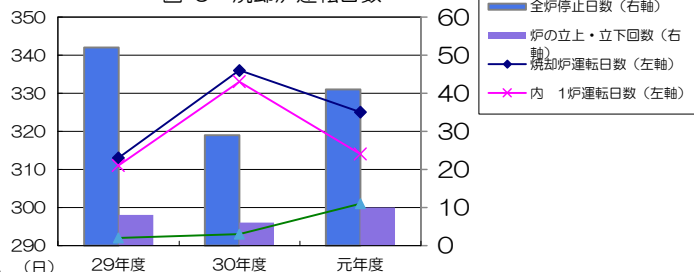


コメント

除去可燃は、不燃・粗大ごみ中の可燃分である。

焼却量は可燃ごみの搬入量の増減に合わせて変動する。

図-9 焼却炉運転日数



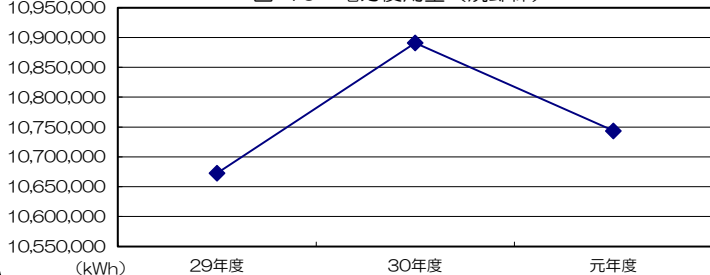
コメント

可燃ごみ搬入量に合わせて、効率の良い焼却炉の運転計画を作成している。

1号炉はなく、2号炉と3号炉による2炉体制である。

焼却炉運転日数…2号炉と3号炉の各炉の運転日数の合計
1炉運転日数…2号炉か3号炉のどちらかが運転している日数
2炉運転日数…2号炉と3号炉両炉が同時に運転している日数
全炉停止日数…2号炉と3号炉両炉が同時に停止している日数
炉の立上・立下回数…焼却炉の稼働や停止の回数

図-10 電力使用量（焼却棟）

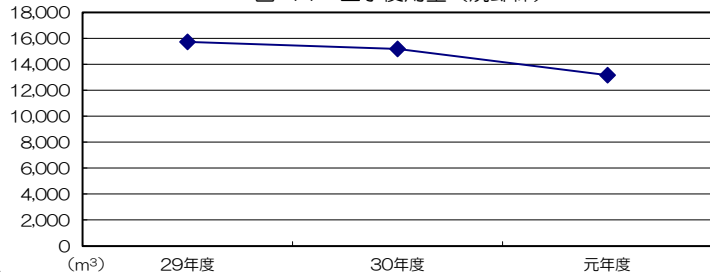


コメント

施設の稼働に電気を使用するため、電力使用量の増減は、焼却炉の運転日数の増減と相関関係にある。

30年度は焼却炉の運転日数の増加に伴い電力使用量も増加している。

図-11 上水使用量（焼却棟）

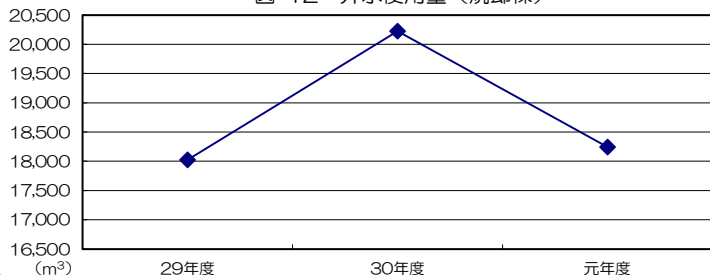


コメント

施設の稼働に上水を使用するため、上水使用量の増減は、焼却炉の運転日数の増減と相関関係にある。

平成29年度の使用量が多いのは、3年に1回の蓄熱槽の清掃・水張り（約600m）に使用したため。

図-12 井水使用量（焼却棟）



コメント

施設の稼働に井水を使用するため、井水使用量の増減は、焼却炉の運転日数の増減と相関関係にある。

30年度は運転日数の増加に伴い増加している。

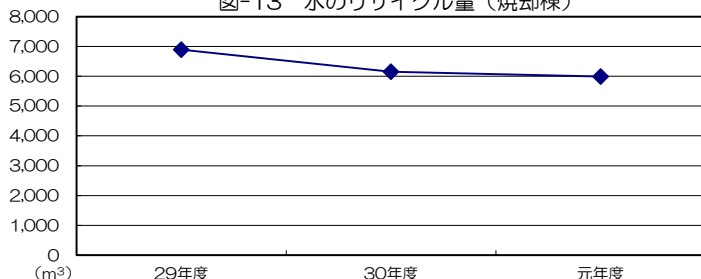
【水のリサイクルについて】

多摩清掃工場の焼却棟には、「よごれた水」を薬品で「きれいな水」に処理する設備があります。

薬品で無機物（浮遊物）を沈殿させます。この沈殿物は、污泥として焼却処理します。また、上澄の「きれいな水」は、工場でリサイクルします。

このように「よごれた水」を「きれいな水」に処理して、工場内で、リサイクルするシステムをクローズドシステムといいます。大切な資源である「水」を効率良く使用することで、水の節減を図り、排水量を減少させることは、とても重要なことです。また排水を外部に出さないことで、環境保護にも大きく役立っています。

図-13 水のリサイクル量（焼却棟）

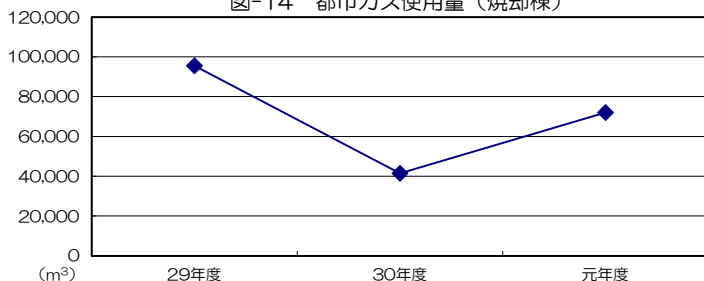


コメント

リサイクルした水は減温水として使用するため、焼却炉の運転日数の増減と相関関係にある。

減温水：バグフィルターが熱で傷まないようにしたり、ダイオキシン類が再合成する温度域（300程度）にならないように排ガス温度を下げるために使用する水。

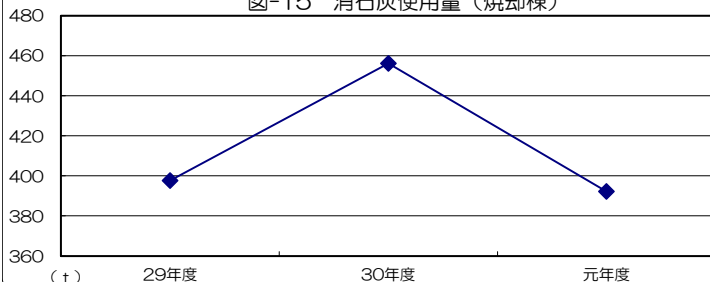
図-14 都市ガス使用量（焼却棟）



コメント

都市ガスは、炉の立上・立下時、炉内の温度低下時等に使用する。このため、使用量は、炉の立上・立下回数の増減と相関関係にある。立上下の回数は、平成28年度:8回、平成30年度:6回、令和元年度:10回である。平成29年度が令和元年度より使用量が多いのは、都市ガスを多く使用する62時間立上げが、平成29年度は3回、令和元年度は1回だったため。

図-15 消石灰使用量（焼却棟）

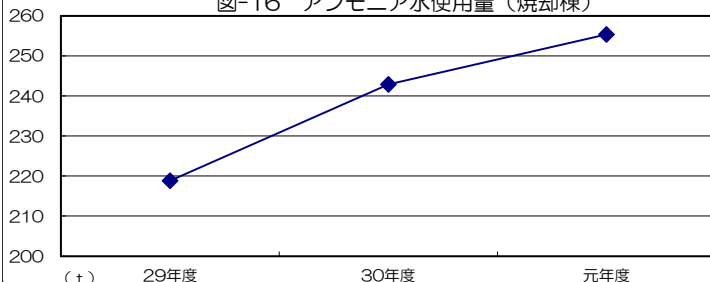


コメント

消石灰は、排ガス中の塩化水素や硫酸化物等の酸性ガスを除去する目的で使用する。

このため、使用量は焼却量の増減と相関関係にある。平成29年度～令和元年度の原単位（ごみ1tあたりに使用する量）は、6.89、7.33、6.31kg/tである。令和元年度は最適な消石灰の選定、吹込み制御の改善検討及びごみ中の合成樹脂類割合の減少により使用量が減少した。

図-16 アンモニア水使用量（焼却棟）

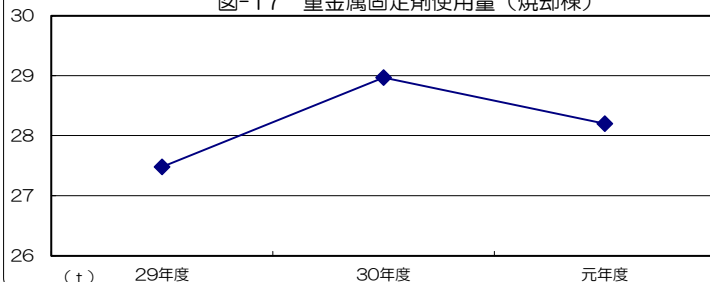


コメント

アンモニア水は、排ガス中の窒素酸化物を除去する目的で、焼却炉内および煙道に使用する。

このため、使用量は焼却量の増減と相関関係にあるが、平成29年度～令和元年度の原単位（ごみ1tあたりに使用する量）は、3.79、3.90、4.11kg/tと増加傾向となっている。今後、使用量の多い炉内噴霧量の改善を図る。

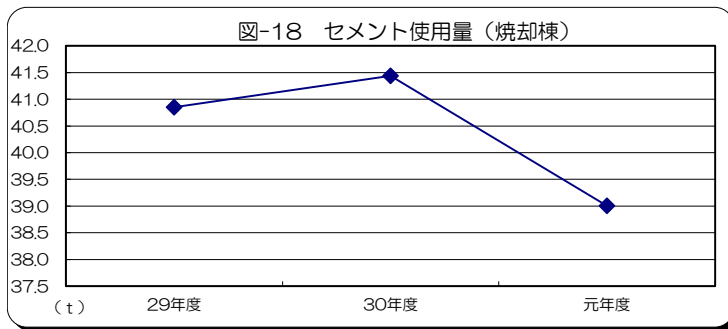
図-17 重金属固定剤使用量（焼却棟）



コメント

排ガス中の飛灰を捕集し、重金属等（鉛等）が溶出しないように薬剤で固定する。

平成30年度は、飛灰に含まれる消石灰の使用量が多かったため使用量が増加した。

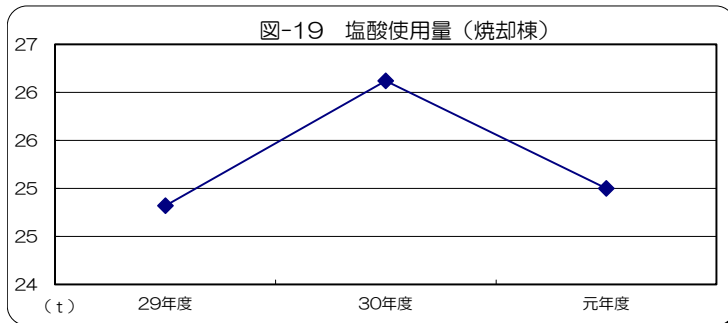


コメント

排ガス中の飛灰を捕集し、重金属等（鉛等）が溶出しないように、セメントで固定する。

平成30年度は、飛灰に含まれる消石灰の使用量が多かったため使用量が増加した。

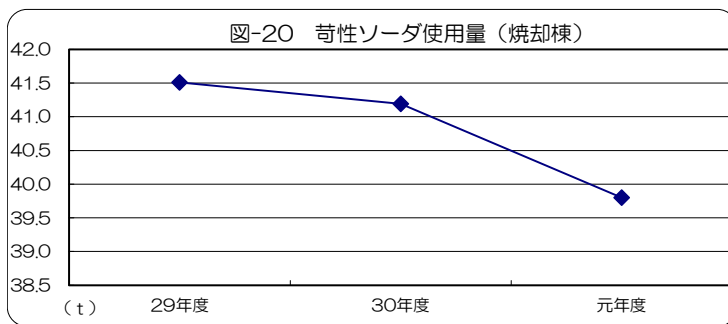
令和元年度は、重金属の溶出に影響のない範囲でセメント添加率を1.5%程度削減したため使用量が減少した。



コメント

「よごれた水」をリサイクルするために、污水处理設備のpH調整に使用したり、焼却炉のボイラ設備で使用する「とてもきれいな水（純水）」を作るための樹脂洗浄に使用する。

平成30年度は焼却量の増加に伴い、使用量が増加した。

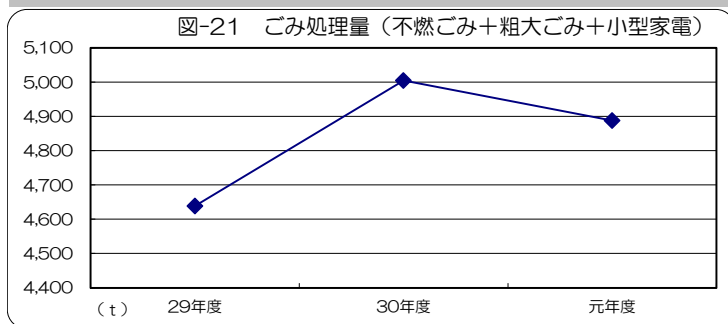


コメント

「よごれた水」をリサイクルするために、污水处理設備のpH調整に使用したり、焼却炉のボイラ設備で使用する「とてもきれいな水」を作るための樹脂洗浄に使用する。

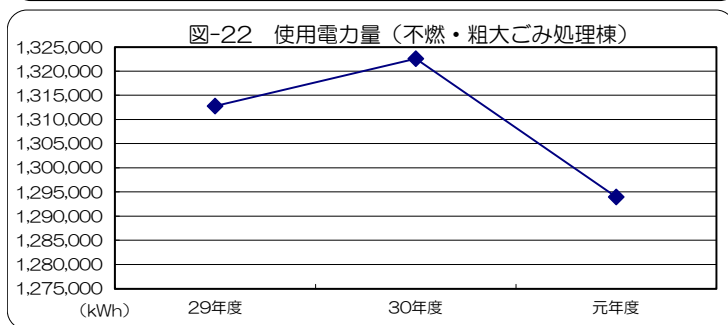
污水处理設備での使用量減少により減少している。

(2) - 3 処理工程（不燃・粗大ごみ処理棟）



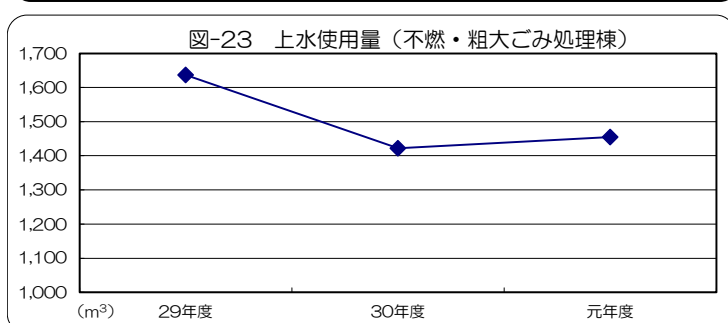
コメント

分別が進み、不燃ごみの搬入量は大きく変化はないが、粗大ごみや小型家電の搬入量が増加傾向にあるため、処理量も増加傾向にある。



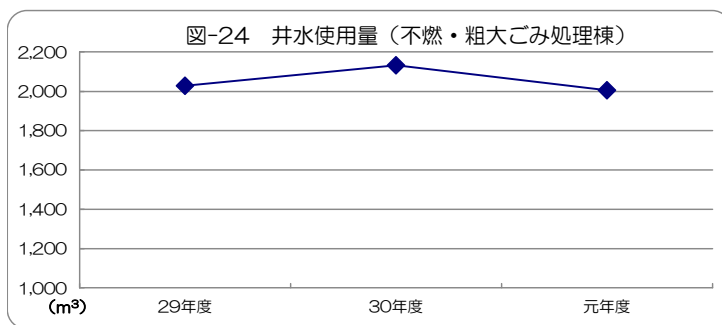
コメント

不燃ごみ、粗大ごみ及び小型家電の処理量と関係にある。



コメント

上水は、防爆用（不燃・粗大ごみ等を破碎する際、事故による爆発を防ぐために、酸素濃度を下げる目的で蒸気を使用）の蒸気を作るために使用する。



コメント
井水は主に清掃に使用されています。井水使用量は大きな変動はありません。

【水のリサイクルについて】

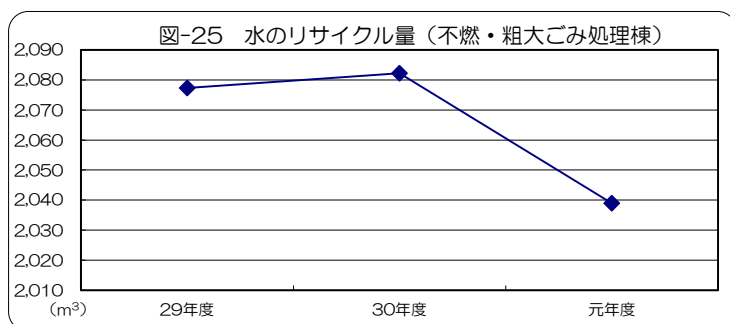
多摩清掃工場の不燃・粗大ごみ処理棟には、「よごれた水」を微生物の力で「きれいな水」に処理する設備があります。微生物の力で処理する設備は、微生物が有機物を食べて（*BOD・**CODを低くする）繁殖し、「汚泥」（微生物のかたまり）となります。この水をろ過し、「かたまり」と「きれいな水」に分離します。この「かたまり」は汚泥として焼却処理し、「きれいな水」は、工場でリサイクルします。

このように「よごれた水」を「きれいな水」に処理して、工場内で、リサイクルするシステムをクロードシステムといいます。大切な資源である「水」を効率良く使用することで、水の節減を図り、排水量を減少させることは、とても重要なことです。また排水を外に出さないことで、環境保護にも大きく役立っています。

*BOD・・・生物化学的酸素要求量といいます。微生物が「よごれ」（有機物）を食べるために使った酸素の量を表します。

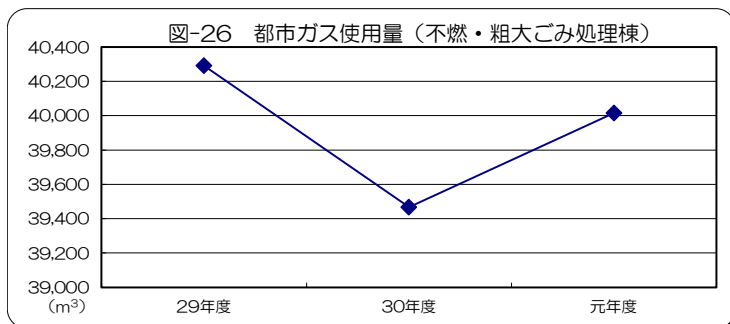
「よごれ」の目安で、高いほどよごれています。

**COD・・・化学的酸素要求量といいます。微生物のかわりに薬品を使って水の中の酸素の使われる量を表します。

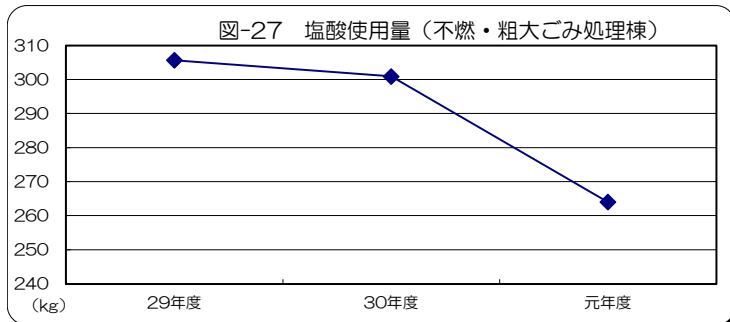


コメント
リサイクルした水は、主に施設内の床等の清掃に使用する。

「よごれた水」の量が減少したため、リサイクル量も減少した。

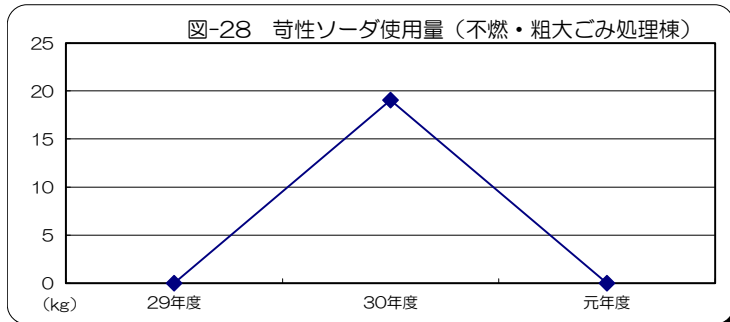


コメント
都市ガスは、防爆用（不燃・粗大ごみ等を破碎する際、事故による爆発を防ぐために、酸素濃度を下げる目的で蒸気を使用）の蒸気を作るために使用する。



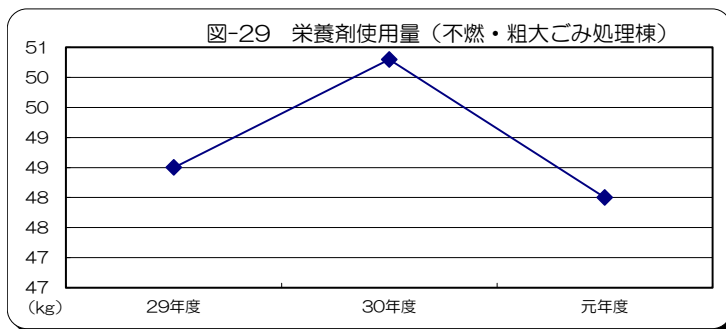
コメント
「よごれた水」をリサイクルするため、污水处理設備のpH調整に使用する。

「よごれた水」の量が減少したため、塩酸使用量も減少している。



コメント
「よごれた水」をリサイクルするために、污水处理設備のpH調整に使用する。

30年度は処理水のpH調整のために使用している。

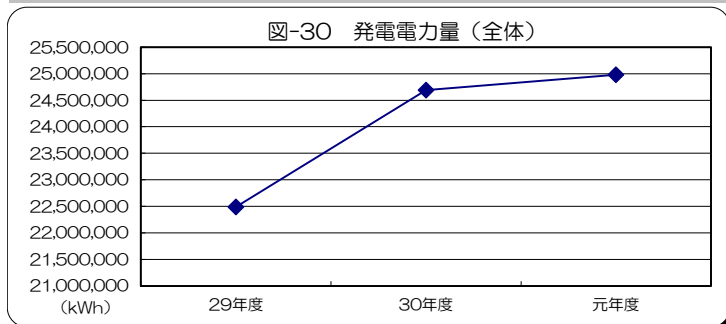


コメント

栄養剤は、「よごれた水」を処理する微生物の食料として使用する。

「よごれた水」の量が減少し、きれいな水（リサイクルした水）にするために必要な栄養剤の使用量も減少した。

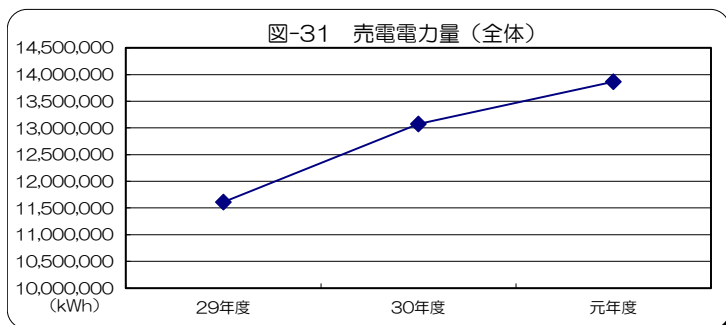
(2) - 4 アウトプット（施設全体での出力情報）



コメント

ごみを焼却した熱を利用して発電するため、発電電力量は、炉の運転日数の増減と似た傾向を示す。

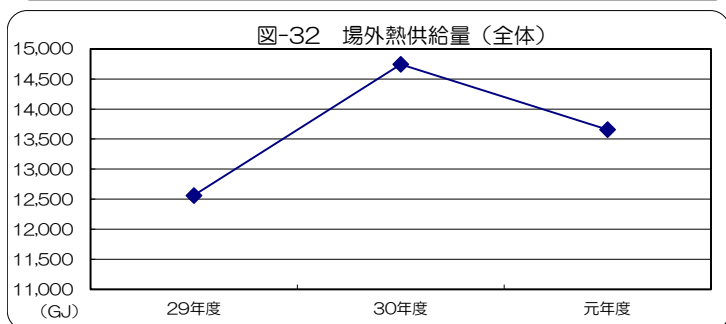
令和元年度は、蒸気使用量の見直しなどの取組みにより、ごみ1t当たりの発電量が増加した。また、新型コロナウイルスの影響で、福祉センターの営業休止に伴い、場外余熱供給を停止したため、発電用の蒸気を多く確保できた。



コメント

売電電力量＝受電電力量＋発電電力量－使用電力量

LED照明工事や、空調設備の更新により、建築照明、建築動力（400V）の消費電力が抑えられたことで、所内電力量（焼却）が減少し、売電電力量が増加している。



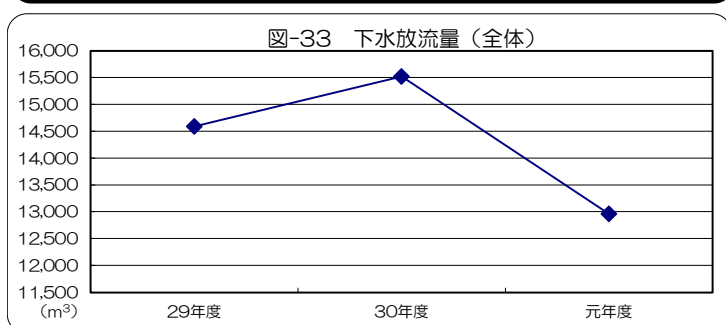
コメント

ごみを焼却した熱を利用して余熱供給するため、余熱供給量は、炉の運転日数や供給先の余熱必要量の影響を受ける。

平成29年度は供給先の施設不具合修繕のため供給停止期間があったため、減少している。

令和元年度は焼却炉の運転日数が平成30年度より11日減少しているため、余熱供給量も比例して減少した。

また、3月には、新型コロナウイルス感染防止のためアクアブルーの営業休止もあり減少した。

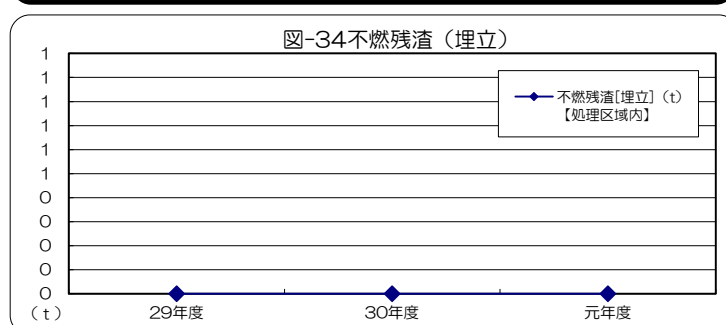


コメント

焼却炉稼働日数により増減する。

平成29年度は、3年に1回の蓄熱槽の清掃・水抜き約600m³を行った。

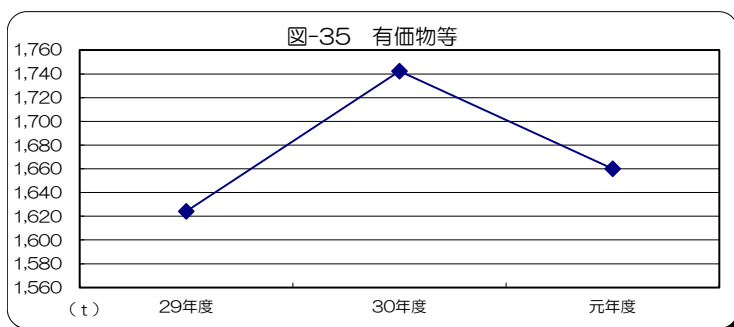
令和元年度は、平均的にごみの発熱量が高かったため、減温水に多く使用したことで下水放流量が減少した。



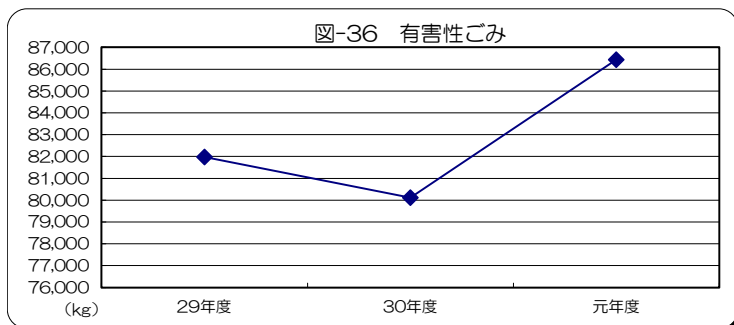
コメント

不燃残渣とは、不燃・粗大ごみ処理棟から発生した残渣で、東京たま広域資源循環組合の最終処分場での埋立量である。

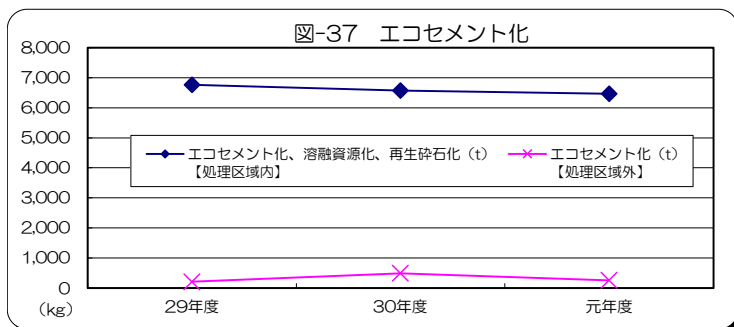
平成27年度から不燃残渣の資源化を開始したため、埋立はしていない。



コメント
有価物等とは、主に不燃・粗大ごみの中から得られる資源物で鉄類、アルミ類、非磁性物、自転車、小型家電等の合計である。



コメント
ここでの有害性ごみとは、乾電池と蛍光管の搬出量の合計である。有害ごみは、専門業者に委託して適正に処理・再資源化している。また、不燃ごみの中に誤って混入された有害ごみについても、手選別により取り出し、同様に適正処理している。



コメント
エコセメントとは、ごみを燃やした後に残る焼却灰を原料としてつくる新しいタイプのセメントである。焼却灰は、セメントに必要な成分を多く含んでいるので、原料として利用できる。平成19年度より、多摩清掃工場の焼却灰は、東京たま広域資源循環組合にて全量エコセメント化している。

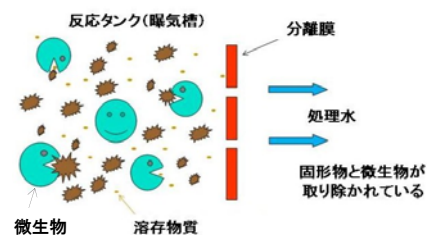
【水のリサイクル】



薬品で「きれいな水」に処理する設備



微生物の力で「きれいな水」に処理する設備



3. 環境対策

PRTR

（化学物質排出移動量届出制度：有害性のある化学物質について、環境中への排出量及び廃棄物に含まれた移動量を把握し、公表する制度）

多摩清掃工場の1年間のダイオキシン類排出量は、煙突から0.38mg-TEQでした。移動量は、下水が0.0012mg - TEQ、灰等が266mg - TEQでした。（TEQ：毒性等量）

第1種指定化学物質の名称		ダイオキシン類										単位	
第1種指定化学物質の号番号		243										mg-TEQ（ダイオキシン類の場合）	
排出量	イ. 大気への排出			0	.	3	8						
	ロ. 公共用水域への排出			0	.	0						排出先の河川、湖沼、海域等の名称 〔なし〕	
	ハ. 当該事業所における土壌への排出（二以外）			0	.	0						なし	
	ニ. 当該事業所における埋立処分			0	.	0						埋立処分を行う場所（該当するものに○をすること）該当なし	1.安定型 2.管理型 3.遮断型
移動量	イ. 下水道への移動			0	.	0	0	1	2			移動先の下水道終末処理施設の名称 〔南多摩水再生センター〕	
	ロ. 当該事業所の外への移動（イ以外）	2	6	6									

(1) 排ガス濃度

年度	測定日	号炉	ばいじん		硫酸化物		窒素酸化物		塩化水素		水銀	
			濃度	規制基準値	排出量	規制基準値	濃度	規制基準値	濃度	規制基準値	濃度	規制基準値
			g/m ³ N		m ³ N/h		ppm	ppm	ppm		μg/m ³ N	
29	H29.5.15	2	<0.001	0.08	0.44	95.6	39	250	20	430		
	H29.7.12	3	<0.001		0.46	89.4	30		13			
	H29.9.11	3	<0.001		0.48	90.9	41		19			
	H29.11.20	3	<0.001		0.47	90.9	33		17			
	H30.1.16	3	<0.001		0.47	90.9	39		24			
	H30.3.15	3	<0.001		0.60	89.4	49		17			
30	H30.5.21	3	<0.001		0.41	90.9	31		17		23	50
	H30.7.11	2	<0.001		0.43	90.9	37		23		4.3	
	H30.9.18	2	<0.001		0.39	90.9	35		18		17	
	H30.11.12	3	<0.001		0.3	90.9	31		15		15	
	H31.1.16	3	<0.001		0.25	90.9	46		15		38	
	H31.3.1	2	<0.001		0.22	92.4	30		12		20	
元	R1.5.20	3	<0.001		0.45	89.4	40		14		32※	50
	R1.7.23	2	<0.001		0.28	90.9	42		14		18	
	R1.9.24	2	<0.001		0.41	90.9	17		17		4.9	
	R1.11.18	3	<0.001		0.30	87.9	51		15		8.9	
	R2.1.10	3	<0.001		0.40	89.4	53		24		16	
	R2.3.2	2	<0.001		0.23	90.9	44		9		29	

※は評価値

評価値とは定期測定において排出基準値（50μg/m³N）を超えた場合に実施する再測定結果3回を含み、最大値及び最小値を除く全ての結果の平均値

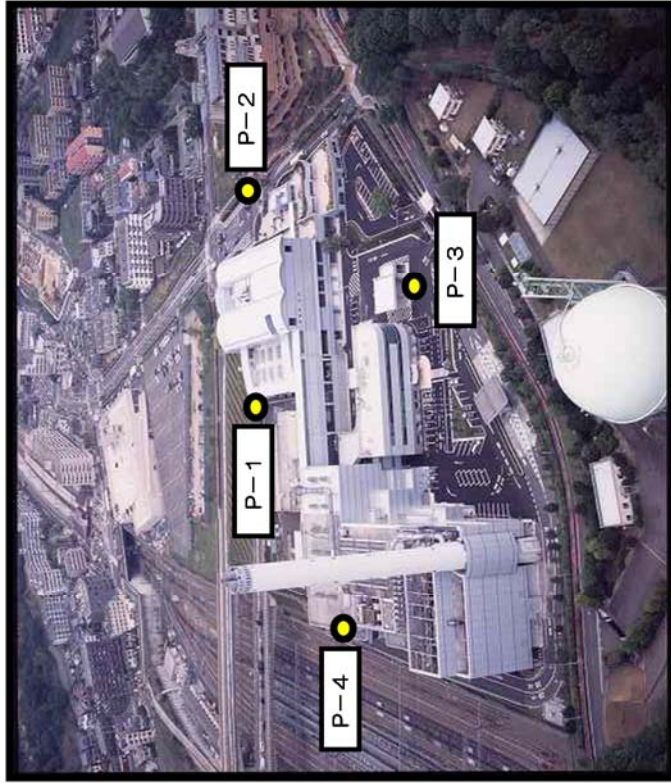
(2) 臭気調査結果

悪臭防止法及び東京都環境確保条例に基づき、多摩清掃工場の敷地境界での臭気指数を調査した結果です。

①臭気指数

年度	測定日	区分	測定場所				規制基準
			P-1	P-2	P-3	P-4	
元	R1.5.20	朝	<10	<10	<10	<10	12
		昼	<10	<10	<10	<10	
		夕	<10	<10	<10	<10	
		放流下水		20			
30	H30.5.12	朝	<10	<10	<10	<10	12
		昼	<10	<10	<10	<10	
		夕	<10	<10	<10	<10	
		放流下水		24			
29	H29.5.15	朝	<10	<10	<10	<10	12
		昼	<10	<10	<10	<10	
		夕	<10	<10	<10	<10	
		放流下水		23			

臭気調査地点



②臭気排出強度

年度	測定日	測定点	臭気指数	臭気排出強度		許容臭気排出強度
				m _N /min		
元	R1.5.20	1号煙突	15	0.36×10 ⁵		0.27×10 ⁸
	R1.7.23	2号煙突	27	0.32×10 ⁶		1.0×10 ⁸
	R1.5.20	3号煙突	20	0.60×10 ⁶		0.92×10 ⁸
30	H30.5.21	1号煙突	19	0.77×10 ⁵		0.25×10 ⁸
	H30.7.11	2号煙突	32	0.11×10 ⁷		1.1×10 ⁸
	H30.5.21	3号煙突	26	0.26×10 ⁶		0.11×10 ⁹
29	H29.5.15	1号煙突	16	0.20×10 ⁵		0.18×10 ⁸
	H29.5.15	2号煙突	24	0.20×10 ⁶		1.2×10 ⁹
	H29.7.12	3号煙突	27	0.32×10 ⁶		0.98×10 ⁸

臭気対策：ごみ焼却施設の開口部分を少なくし、臭気が外部に漏れることのないように努めています。また、ごみピット内の空気は燃焼炉として焼却炉で燃焼・分解することで臭気の流出防止に努めています。定期点検整備等による焼却炉停止時には、脱臭装置でごみピット内の空気を処理し臭気を除去しています。この際、ごみピット内の空気は常に脱臭装置に吸引され、ごみピット内を負圧に保つことで臭気が外部に漏れることのないように努めています。フラットボームの出入口にエアーカーテンを設置しています。

1号煙突は不燃組大ごみ処理施設の空気を脱臭して排出しています。2、3号煙突は焼却炉の排ガスを排出しています。

(3) 騒音・振動調査結果

騒音規制法・振動規制法及び東京都環境確保条例に基づき、多摩清掃工場の敷地境界での騒音・振動調査をした結果です。

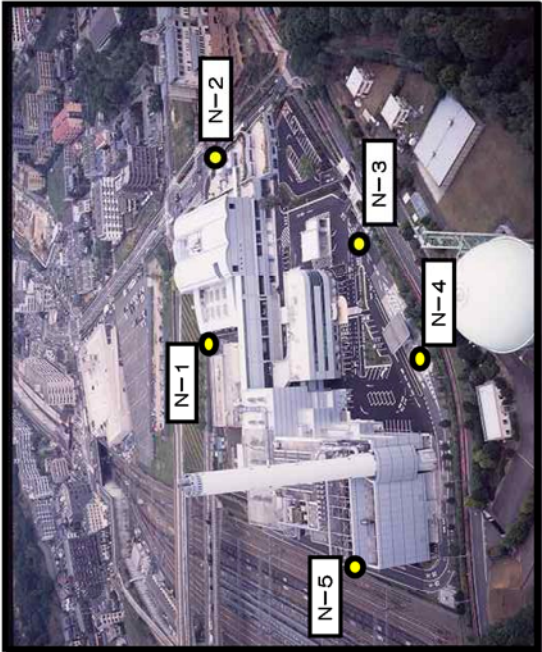
①騒音調査

年度	測定日	時間区分	調査地点				
			N-1	N-2	N-3	N-4	N-5
元	R1.6.13~14	工場騒音	57	57	60	53	60
		規制基準			60		
		工場騒音	49	50	47	47	47
		規制基準			55		
		工場騒音	40	43	45	46	48
		規制基準			50		
30	H30.6.14~15	工場騒音	53	48	44	48	51
		規制基準			55		
		工場騒音	60	54	57	49	58
		規制基準			60		
		工場騒音	47	49	43	47	50
		規制基準			55		
29	H29.6.13~14	工場騒音	40	42	42	45	45
		規制基準			50		
		工場騒音	48	46	42	44	48
		規制基準			55		
		工場騒音	56	55	55	55	52
		規制基準			60		
	H29.6.13~14	工場騒音	47	47	45	44	50
		規制基準			55		
		工場騒音	39	44	44	44	49
		規制基準			50		
		工場騒音	47	48	45	43	51
		規制基準			55		

年度	測定日	時間区分	調査地点				
			N-1	N-2	N-3	N-4	N-5
元	R1.6.13~14	工場振動	43	32	38	33	<30
		規制基準			65		
		工場振動	32	<30	36	32	<30
		規制基準			60		
30	H30.6.14~15	工場振動	33	39	37	40	48
		規制基準			65		
		工場振動	32	31	35	34	46
		規制基準			60		
29	H29.6.13~14	工場振動	35	32	34	38	42
		規制基準			65		
		工場振動	<30	<30	<30	38	40
		規制基準			60		

振動対策：振動の発生源となる燃焼（碎砕機）に防振装置を施し、振動レベルの低減を図っています。また、燃焼の土台となる基礎は独立したものを施しました。また、振動源となる燃焼は建物内に配置し、振動が外部に漏れないように配慮しました。

騒音・振動調査地点



騒音対策：騒音の発生源となる燃焼（空気圧縮機）に防音材（ワレタン素材：20mm）を施し、騒音レベルの低減を図っています。騒音源となる燃焼は建物内に配置し、騒音が外部に漏れないように配慮し、また、防音効果を高めるために壁面に防音材（グラスウール：50mm）を施しています（機械選別機）。

(4) 工場より排出されるダイオキシン類

単位：ng-TEQ/m³

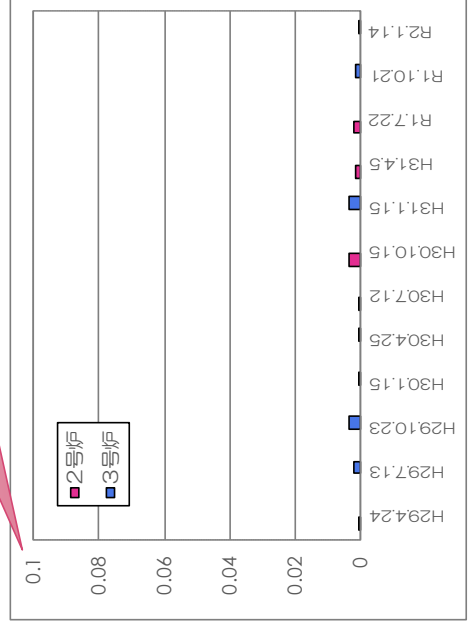
排ガス中のダイオキシン類 規制値：1	平成29年度			平成30年度			令和元年度		
	年度								
	測定日	H29.4.24	H29.7.13	H29.10.23	H30.1.15	H30.4.25	H30.7.12	H30.10.15	H31.1.15
	2号炉	0.00015	休炉中	休炉中	休炉中	休炉中	0.00061	0.0038	休炉中
3号炉	測定日	H29.4.24	H29.7.13	H29.10.23	H30.1.15	H30.4.25	H30.7.12	H30.10.15	H31.1.15
	3号炉	0.00015	休炉中	0.00034	0.00024	0.00023	休炉中	休炉中	0.0036
単位：ng-TEQ/g									

焼却灰中のダイオキシン類 規制値：3	平成29年度			平成30年度			令和元年度		
	年度								
	測定日	H29.4.24	H29.7.13	H29.10.23	H30.1.15	H30.4.25	H30.7.12	H30.10.15	H31.1.15
	2号炉	0.011	休炉中	休炉中	休炉中	休炉中	0.0071	0.011	休炉中
3号炉	測定日	H29.4.24	H29.7.13	H29.10.23	H30.1.15	H30.4.25	H30.7.12	H30.10.15	H31.1.15
	3号炉	休炉中	0.00082	0.023	0.0049	0.0070	休炉中	休炉中	0.019
単位：pg-TEQ/L									

放流下水中のダイオキシン類 規制値：10	平成29年度			平成30年度			令和元年度		
	年度								
	測定日	H29.4.24	H29.7.13	H29.10.23	H30.1.15	H30.4.25	H30.7.12	H30.10.15	H31.1.15
	最終放流下樹	0.075	0.0070	0.040	0.00024	0.023	0.44	0.039	0.59
単位：pg-TEQ/L									

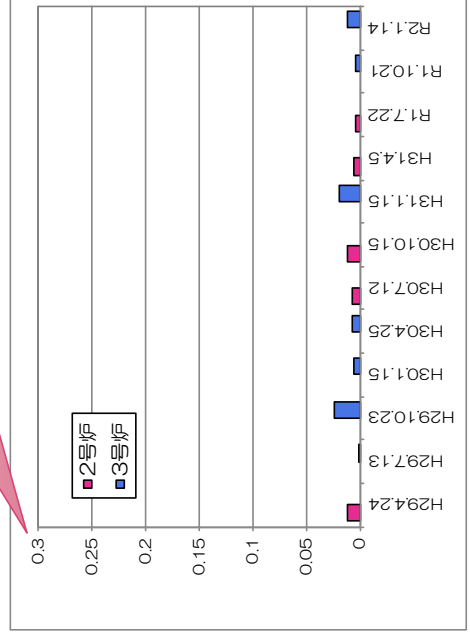
排ガス

規制値1ng-TEQ/m³Nの
1/10を大きく下回る



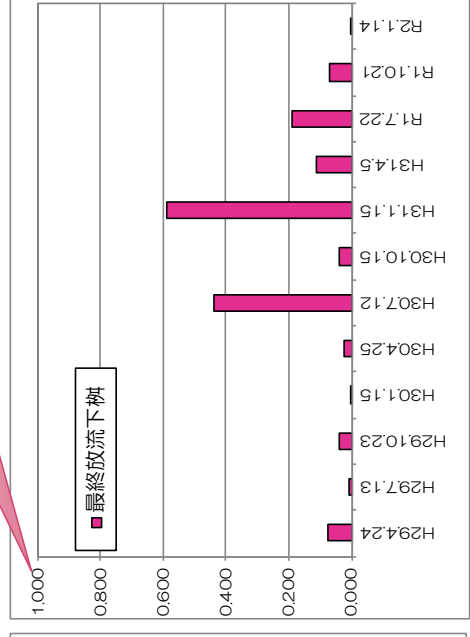
焼却灰

規制値3ng-TEQ/gの
1/10を大きく下回る



下水放流水

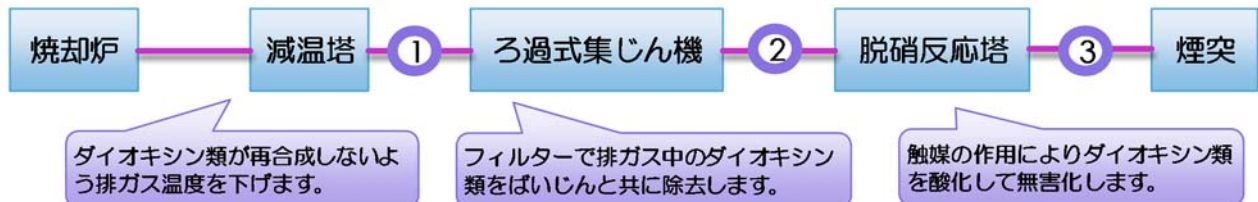
規制値10pg-TEQ/Lの
1/10を大きく下回る



排ガスの排出経路でのダイオキシン類測定結果と除去率

排ガスに含まれるダイオキシン類の除去効果から、設備の健全性を確認するため、各排ガス処理設備の前後で同時に測定し、ダイオキシン類の除去率を算出しています。

排ガスの流れ

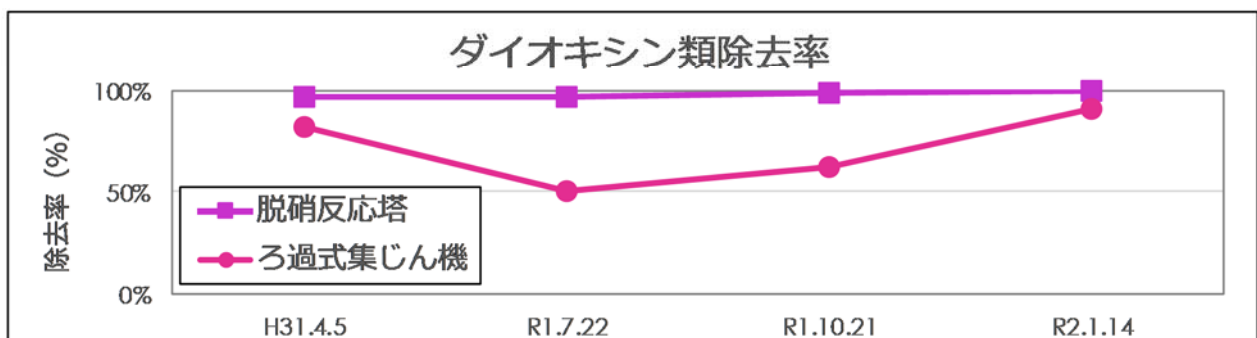


○・・・測定地点

単位：ng-TEQ/m³_N

測定炉	測定日	① 減温塔出口	② ろ過式集じん機出口	③ 煙突
2号炉	H31.4.5	0.28	0.049	0.0015
	除去率 (%)	—	82.5%	96.9%
	R1.7.22	0.14	0.069	0.0019
	除去率 (%)	—	50.7%	97.2%

3号炉	R1.10.21	0.26	0.099	0.0015
	除去率 (%)	—	61.9%	98.5%
	R2.1.14	0.28	0.024	0.000041
	除去率 (%)	—	91.4%	99.8%



～ 測定結果のコメント ～

法令に基づいて工場から排出されるばい煙やダイオキシン類等の濃度を測定しています。測定の結果は、いずれも法令の基準値やそれよりも低いISO14001で設定した自主規制運用値を下回っており、良好な運転管理を行っています。

(5) 大気中のダイオキシン類・SPM（浮遊粒子状物質）

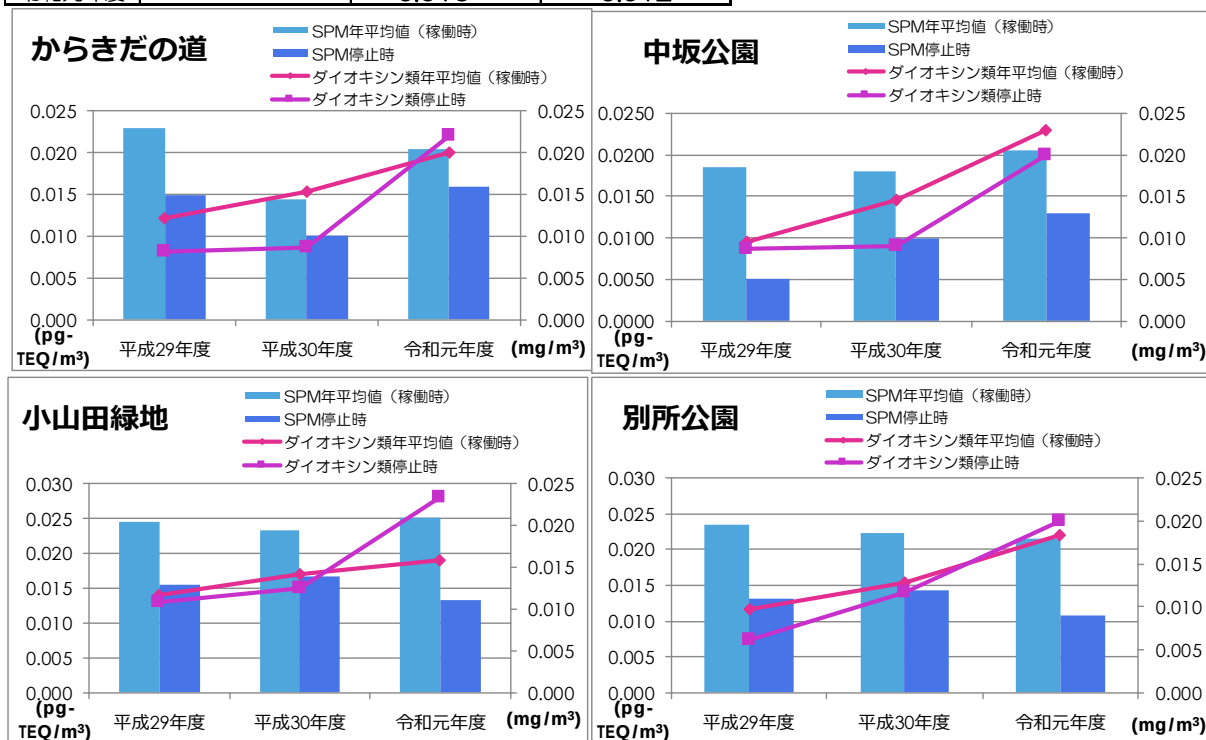
単位：ダイオキシン類 pg-TEQ/m³
S P M mg/m³

年 度	調査名等		調査地点								環境基準
			からきだの道		中坂公園		小山田緑地		別所公園		
			ダイオキシン類	SPM	ダイオキシン類	SPM	ダイオキシン類	SPM	ダイオキシン類	SPM	
平成29年度	稼働時	夏期調査 (7/7～14)	0.017	0.026	0.0096	0.023	0.016	0.025	0.016	0.026	ダイオキ シン類 0.6以下 SPM 0.1以下 (1時間値の 一日平均) 0.2以下 (1時間値)
		冬期調査 (1/10～17)	0.0075	0.020	0.0095	0.014	0.012	0.016	0.0073	0.013	
	年平均値（稼働時）		0.012	0.023	0.0096	0.019	0.014	0.021	0.012	0.020	
	停止時調査(1/22～1/29)		0.0081	0.015	0.0087	0.005	0.013	0.013	0.0074	0.011	
平成30年度	稼働時	夏期調査 (7/6～13)	0.021	0.016	0.017	0.020	0.017	0.020	0.021	0.019	SPM 0.1以下 (1時間値の 一日平均) 0.2以下 (1時間値)
		冬期調査 (1/10～17)	0.0097	0.013	0.012	0.016	0.017	0.019	0.0097	0.018	
	年平均値（稼働時）		0.015	0.015	0.015	0.018	0.017	0.020	0.015	0.019	
	停止時調査(1/21～28)		0.0087	0.010	0.0090	0.010	0.015	0.014	0.014	0.012	
令和元年度	稼働時	夏期調査 (7/18～25)	0.020	0.022	0.022	0.025	0.017	0.027	0.023	0.023	SPM 0.1以下 (1時間値の 一日平均) 0.2以下 (1時間値)
		冬期調査 (1/6～13)	0.020	0.019	0.023	0.016	0.021	0.015	0.020	0.013	
	年平均値（稼働時）		0.020	0.021	0.023	0.021	0.019	0.021	0.022	0.018	
	焼却炉停止時調査 (1/15～22)		0.022	0.016	0.020	0.013	0.028	0.011	0.024	0.009	

参考資料（年4回測定の前平均値）

年 度	単位	八王子市片倉町局	町田市能ヶ谷町局
平成29年度	pg-TEQ/m ³	0.018	0.013
平成30年度		0.014	0.020
令和元年度		0.016	0.012

左表は、東京都環境局ホームペ
ジより一部抜粋したものです。ま
た、抜粋箇所は、構成市内の測定結
果です。



コメント

平成14年12月1日の『ダイオキシン類対策特別措置法』の施行を境に、排出基準が厳しくなり大気中のダイオキシン類濃度は大幅に減少した。また、都内の環境大気中のダイオキシン類調査結果（平成30年度）と比較したところ、当工場の周辺大気中のダイオキシン類濃度は同程度であった。今回の調査地点周辺住民の一日呼吸量を15m³体重を50kgと仮定し、大気からのダイオキシン類の暴露量を、令和元年度調査結果の年平均値（最大）0.023pg-TEQ/m³を用いて計算すると0.0069pg-TEQ/kg/日となる。これを1ダイオキシン類の耐容一日摂取量（TDI）である4pg-TEQ/kg/日と比較すると0.58%の寄与率だった。（²平成30年度食品からのダイオキシン類一日摂取量調査結果は、0.51 pgTEQ/kg bw/日であった。）

¹「ダイオキシン類の耐容一日摂取量（TDI）について」（平成11年6月「環境庁」）

²「平成30年度食品からのダイオキシン類一日摂取量調査結果」（令和元年12月10日「医薬生活衛生局 食品監視安全課」）

(6) 地球温暖化防止 CO₂排出量

地球温暖化対策計画書（総量削減義務）の対象外である中小規模事業所を対象に「地球温暖化対策報告書制度」が創設されました。使用するエネルギーが原油換算で年間3,000kL以上で提出することが義務づけられます。この報告書を任意で提出しています。

1 原油換算エネルギー使用量及び二酸化炭素排出量（平成30年度の状況）

原油換算エネルギー使用量（①=⑭×0.0258）		①	268	kl
二酸化炭素 排 出 量	燃料等の使用に伴い排出される二酸化炭素の量（②=⑮）	②	526	t
	水道及び工業用水道の使用並びに公共下水道への排水に伴って排出される二酸化炭素の量（③=⑯）	③	10	t
	総 計（④=②+③）	④	536	t
二酸化炭素 排出原単位	燃料等の使用に伴い排出される二酸化炭素の延床面積当たりの量（⑤=②×1000/事業所等の延床面積）	⑤	15.2	kg-CO ₂ /m ²

2 二酸化炭素排出量等の内訳

燃料等の種別		推計の使用	単位	使用量 ⑥	係数 ⑦	熱量 (GJ) ⑧=(⑥ /1000)×⑦	二酸化炭素排出量	
							排出 係数 ⑨	排出量※1 (t) ⑩=⑧×⑨ ×44/12
燃 料 及 び 熱	都市ガス	□	Nm ³	95,297.7	45.00	4,288.4	0.014	213.8
	その他（ガソリン）	□	L	192.0	34.60	6.6	0.018	0.4
	その他（灯油）	□	L	446.0	36.70	16.4	0.019	1.1
	その他（軽油）	□	L	7,297.0	37.70	275.1	0.019	18.9
	その他（ ）	□		0.0				
電 気	一般電気事業者からの買電	□	kWh	0.0	9.97	0.0	0.489	0.0
	夜間（22時～翌日8時）	□	kWh	0.0	9.28	0.0	0.489	0.0
	その他の買電（昼夜間不明の場合を含む。）	□	kWh	596,970.0	9.76	5,826.4	0.489	291.9
規則第5条の17第3項の場合のみなし値※2			kWh	⑫	0.0	⑪	0.0	⑬
合 計						10412.9		526.2
そ の 他	水道及び工業用水道	□	m ³	16,046.0			0.251	4.0
	公共下水道	□	m ³	15,520.0			0.439	6.8
合 計								108.0

※1 電気の使用、水道及び工業用水道の水の使用並びに公共下水道への排水に伴う二酸化炭素排出量は、⑩=(⑧/1,000)×⑨とする。

※2 ⑪=(都が指定する原単位×延床面積×事業所等の総稼働時間)/1,000

⑫=(⑪/電気のその他の買電（昼夜間不明の場合を含む。）の係数)×1,000 ⑬=(⑫/1,000)×⑨とする。

3 地球温暖化対策の実施状況

		重点対策		その他対策	
		対策番号	対策名	対策番号	対策名
組織体制の 整備		A201	地球温暖化対策の方針等の設定	A202	温暖化対策推進担当の配置
		A205	取組内容や点検体制の定期的改善	A203	具体的な取組目標と内容の設定
		A208	組織横断的な推進体制の整備	A204	取組状況の点検体制の構築
				A206	所内の温室効果ガス排出量を集計
エネルギー等の 使用状況の 把握		B103	時間的に詳細に把握	B101	自ら入手可能な情報に基づく把握
		B106	過去のデータによる傾向の把握	B104	設備ごとに詳細に把握
		B107	主要設備の使用状況の把握	B105	エネルギー使用量の前年度比較
省エネ エネルギー対策	運 用 対 策	C105	屋休み時の消灯の実施	C101	空室・不在時等のこまめな消灯
		C113	中間期における外気冷房の実施	C102	照明スイッチに点灯範囲を表示
		C123	温湿度の適正管理	C104	採光を利用した消灯の実施
		C115	事務用機器を業務終了時に停止	C106	冷暖房温度を都の推奨値へ変更
		C111	予熱・予冷時の外気導入の停止	C107	空調機スイッチに空調範囲を表示
				C108	温度計等による室温の把握と調整
				C109	空室・不在時等の空調停止
				C110	余熱利用による早めの空調停止
	設備保守対策	D101	ランプ等の定期的な清掃・交換	D104	空調フィルターの清掃・点検
		D103	中央熱源機器等の定期点検の実施	D106	ボイラ等の定期点検の実施
		D105	換気フィルターの清掃・点検	D108	その他設備の定期的な保守・点検
		D107	ボイラ等の空気比の調整		
	設備導入対策	E103	高効率照明器具の採用（屋内）	E105	照明用人体感センサの採用
		E109	空調の冷温水配管の保温の実施	E111	ポンプ・ファンのインバータ制御
		E124	更新に合わせた高効率機器の採用	E135	エレベータのインバータ制御

～温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度について～

令和元年度の温室効果ガス算定排出量：21,254t-CO₂

温室効果ガス：温対法により6種類的气体を温室効果ガスと定め、当工場の義務対象は、3,000t以上のCO₂・CH₄・N₂Oとなります。

(7) PCBの保管

ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法第8条の規定に基づき、平成29年度のポリ塩化ビフェニル廃棄物の保管、処分の状況等を届出しています。

- ◆ 当工場は、平成29年11月に安定器とコンデンサ合わせて201台を適正に処理し、現在保管はありません。平成17年度に「早期登録・調整協力割引料金を適用するPCB廃棄物等」として登録された38台のコンデンサを平成22年7月に適正に処理しました。また微量PCBを含む油を平成27年1月に適正に処理しました。

搬出状況



PCB 廃棄物



(8) 光化学スモッグ発生時の対応について

多摩清掃工場での対策は、光化学スモッグの予報・注意報・警報が発令されると、段階に応じて、光化学スモッグの原因物質である窒素酸化物の排出削減に努めています。発令翌日には、東京都環境局に削減措置の実施内容・削減量等を記載したものを報告し、確実な対応で環境負荷の低減を図っています。

☆ 光化学スモッグとは???

工場や自動車の排気ガスなどに含まれる窒素酸化物や炭化水素（揮発性有機化合物）が日光に含まれる紫外線の影響で光化学反応をおこすことにより生成する有害な光化学オキシダント（オゾンやアルデヒドなど）やエアロゾルが空中に停留し、スモッグ状になることです。



（９）アスベスト製品の取扱い

多摩清掃工場へ搬入される家庭からのアスベスト製品は、商品に含まれ固定化された非飛散性のものだけです。各構成市が処理するまでの期間ドラム缶の中で適正に一時保管しています。また、平成 19 年度に、多摩清掃工場の敷地境界（４箇所）において、アスベストの測定を実施しましたが、測定結果は基準値を大きく下回る結果でした。

（１０）工場棟内の作業環境測定について

多摩清掃工場では、年に２回焼却棟と不燃・粗大ごみ処理棟の作業環境測定を行っています。焼却棟では粉じんに含まれるダイオキシン類濃度を測定し、不燃・粗大ごみ処理棟では粉じん、等価騒音、特定化学物質などをそれぞれの作業場で測定しています。１回目の測定で、焼却棟と不燃・粗大ごみ処理棟、いずれの作業環境測定も第１管理区分^{*１}となりました。２回目の測定では、不燃・粗大ごみ処理棟の一部で第２管理区分^{*２}となりました。

＊１ 第１管理区分：作業環境管理が適切に行われていると判断される状態

＊２ 第２管理区分：作業環境管理になお改善の余地があると判断される状態

(11) 放射能等測定結果について

放射性物質汚染対処特別措置法に基づき、多摩清掃工場の敷地境界及び排ガス、焼却灰（飛灰固化物・主灰）の測定をした結果です。排ガスについてはいずれも不検出でした。また、焼却灰（主灰・飛灰固化物）についても、国の定めた基準値8,000Bq/kgを下回る結果でした。

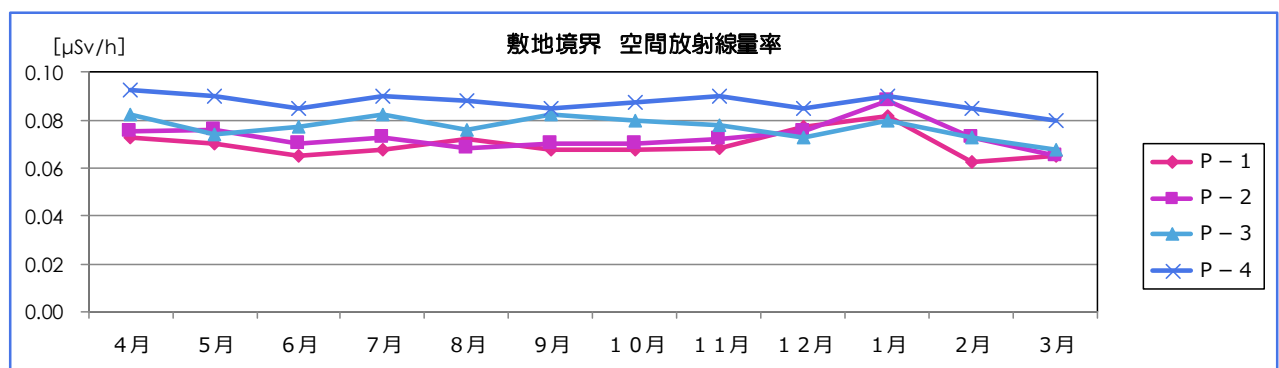
① 敷地境界における空間放射線量率測定

(単位: $\mu\text{Sv/h}$)

測定地点	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
P-1	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.08	0.08	0.06	0.07	0.07
P-2	0.08	0.08	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.08	0.09	0.07	0.07	0.07
P-3	0.08	0.07	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.07	0.08	0.07	0.07	0.08
P-4	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.08	0.09

※ 週1回測定した結果の月平均値

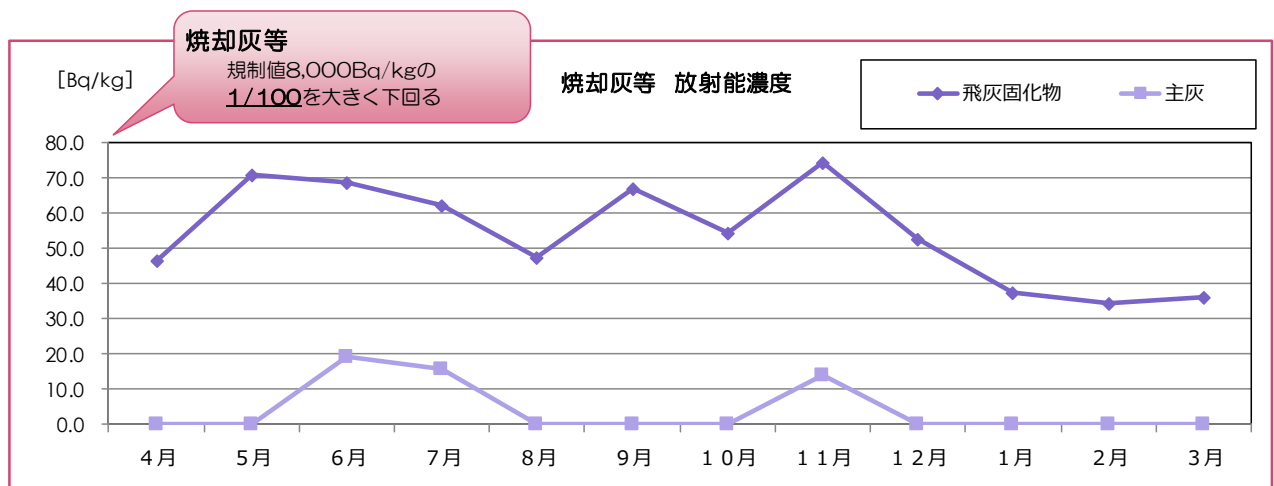
※ 測定地点については31ページの臭気調査結果の「臭気調査地点」と同じである。



② 放射能濃度測定結果

(単位: 排ガス [Bq/m³N] 飛灰固化物・主灰 [Bq/kg])

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
排ガス	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	—
飛灰固化物	46.5	70.8	68.7	62.2	47.6	66.9	54.3	74.5	52.9	37.6	34.4	36.3	54.4
主灰	不検出	不検出	19.2	16.0	不検出	不検出	不検出	13.9	不検出	不検出	不検出	不検出	16.4



4. 発電

ごみの燃焼による熱を利用してボイラで高温高压の蒸気を発生させます。この蒸気は工場の必要な箇所や近隣の施設で利用しています。また、蒸気を使った蒸気タービン発電機により工場では自家発電を行い工場内の動力や照明などに利用され、余った電力は電力会社に売却をしています。蒸気タービンとは蒸気のもつ熱エネルギーをタービン内で噴出・膨張させて羽根車を回し回転エネルギーに変換する装置です。蒸気タービンと減速機を介して、発電機は 1,500 回転／分で回転して最大 8,000 kW の電力を作り出すことができます。

令和元年度は、ごみ量による焼却炉の運転時間増加により電力会社への売却収入は前年度より 13.2%減少し約 1 億 6,337 万円となりました。



蒸気タービン開放点検



5. 熱の供給

多摩清掃工場に隣接している多摩市総合福祉センターと多摩市立温水プール（アクアブルー多摩）へ高温水で熱を供給しています。福祉センターでは、空調や給湯に利用されています。

また、温水プールでは、プールの水温やシャワー等の昇温に使われています。供給した熱量は、約 1,750 世帯※が 1 年間使用するガス量となります。



※「環境省 令和 2 年 3 月 平成 30 年度家庭部門の CO₂ 排出実態統計調査結果」の世帯当たりの年間エネルギー消費量（全国）より算出（13,657.9GJ/7.8GJ）

6. 環境負荷を減らす取り組み

多摩ニュータウン環境組合（多摩清掃工場）では、「地球にやさしい循環型社会」実現のため「環境方針」を策定し、平成15年3月に多摩地域の清掃工場として初めて環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しました。

環境管理システムの効率的な運用と継続的改善を実行し、職員及び委託業者が一丸となって、地球にやさしい開かれた清掃工場を目指して、運用を行っています。

環境目標・実績

『環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場』を実現するため、環境法令等の遵守とともに、以下の項目を実施しました。

◆令和元年度の取組状況

◇ 発生源の区分：順守義務

環 境 目 標	実 施 状 況
環境法令等（自主規制値含む）の規制値の遵守 （大気、悪臭、灰、騒音、振動、水質、放射性物質）	全項目達成
地球温暖化対策計画書の作成	実施

◇ 発生源の区分：著しい環境側面

環 境 目 標	実 施 状 況
余熱を継続的に供給し、CO ₂ 削減を図る（余熱供給停止日数0日）	達成（0日、削減量697t）
照明のLED化（18本／月・216本／年）	実施（320本／年）
アイドリングストップ（掲示の更新）	実施

◇ 発生源の区分：利害関係者のニーズ及び期待

環 境 目 標	実 施 状 況
毎月第4日曜日の一般家庭の粗大ごみ受付	実施（998件／年）
組合主催見学会の実施（10回／年）	実施（10回／年）
地域連携事業（たまかんフェスタ）（1回／年）	実施
地球温暖化対策報告書の作成	実施
環境報告書の作成	実施

◇ 発生源の区分：内部・外部の課題

環 境 目 標	実 施 状 況
省エネルギー機器の導入	実施
資源化の促進（リチウムイオン電池の無償資源化）	実施
不適物搬入の防止（説明会実施）	延期 ※
落じん灰回収の検討	実施
保全技術の維持向上（維持向上検討会年3回）	実施
合同研修の開催	延期 ※
構成市イベントへの参加	実施（2回／年）
広報・見学資料等の充実	実施
地域協議会の設立（情報交換会年2回）	1回実施 1回延期 ※
地元自治会等を対象とした見学会の実施	実施
新たな情報発信の検討（LINEスタンプ展開）	実施

※ 新型コロナウイルスの影響で延期

◇ 発生源の区分 : 自然環境

環 境 目 標	実 施 状 況
食器リサイクル事業への理解推進（啓発冊子作成）	実施

審査機関による定期審査の結果について

多摩ニュータウン環境組合（多摩清掃工場）の環境マネジメントシステムが、ISO14001:2015（JIS Q 14001）の要求事項に適合していて、かつ環境管理活動がシステムに沿って実施されているかを外部審査機関によって審査します。また、ここでは法規制が遵守されているかについても確認します。

令和2年2月26日から27日に株式会社日本環境認証機構によって定期審査が行われ、「改善の機会¹」は1件、「不適合²」は0件、マネジメントシステム及びパフォーマンスの評価は以下のとおりの結果となりました。結果として、今回の定期審査において、環境マネジメントシステムは適切に管理され、有効に運用されていると判断されました。

今後、さらなる改善を行い、『環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場』を実現するため、より良い環境マネジメントシステムを構築していきます。

～審査機関所見総括（審査報告書抜粋）～

1 概要

組織のEMSは、この1年間も適切に管理、運用されている事を確認しました。公的施設としての清掃工場は、内外の課題、ニーズ及び期待、並びにリスクと機会等から、省エネや省資源活動に加え、焼却炉から発生する熱源で発電した電力の有効活用、並びに余熱の蒸気を隣接する施設に供給する事で、二酸化炭素の大幅な削減に貢献し、地域に開かれた清掃工場として、事業の中で木目細かに展開、成果に繋がっています。

2 要点

a) 順守義務に関するプロセスの実施と有効性

組織に適用される法規制等は、「順守義務」に登録、運用されています。特に、焼却炉の運転に伴う大防法やダイオキシン類特措法に、水濁法、毒劇物取締法、廃掃法及びフロン排出抑制法等は、適切に管理されており、法規制の順守評価も計画的に月次評価され、法的な問題の生じていない事を都度確認しています。

b) 組織の状況から計画に至るプロセスの実施と有効性

管理者の掲げた環境方針に、内外の課題、ニーズ及び期待、並びにリスク及び機会等からの環境目標は、「進行管理表」の中に展開され、省エネ活動に加え、焼却炉で発生した熱源で発電した電力の売電、余熱の蒸気を隣接施設に供給し二酸化炭素の削減に大きく貢献、地域に開かれた清掃工場として、事業と共に木目細かに展開しています。今後も、地球温暖化対策や地域への貢献等、継続活動と成果に期待します。

c) 内部監査プロセスの実施と有効性

内部監査は適切に実施されています。8月28日、29日の両日に実施された内部監査では、不適合は検出されませんでしたが改善の機会が3件検出し、いずれも既に対応されています。また、内部監査では議論も良く交わされており、結果として環境活動の活性化、システムの質的向上に寄与しており、今後の継続にも期待できます。

d) マネジメントレビューの実施、有効性

マネジメントレビューでは、環境活動の活性化と共に、地域の中で存在し続けるべく清掃工場としてのあり方を見据え、事務局長の指導の下に事業と環境活動との連携が議論されています。今後も、清掃工場としての本来の事業運営も踏まえ、これと連携した環境活動に期待できます。

¹改善の機会：規格の要求事項に不適合とはいえないが、改善するとより良いシステムになるとされた事項。

²不適合：要求事項を満たしていないこと

定期審査の様子



オープニングミーティング



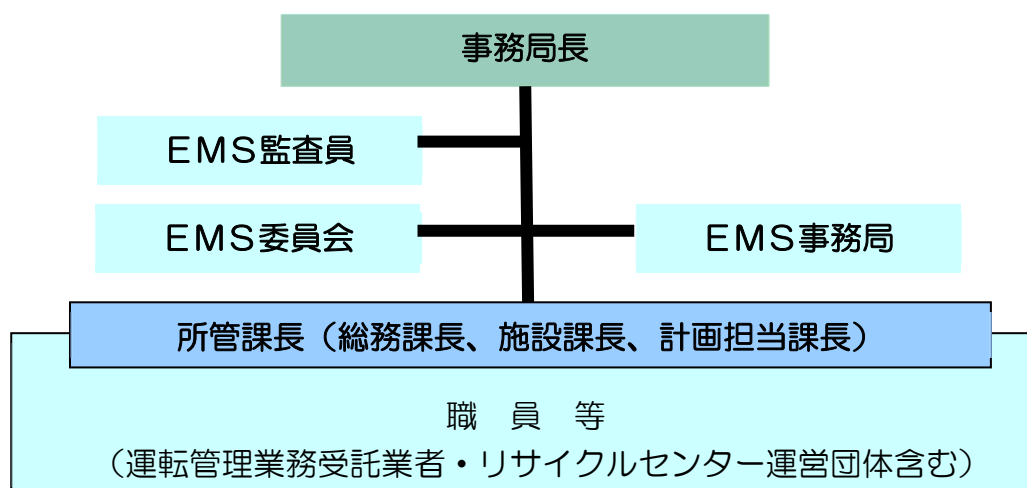
審査中



現場審査

7. 環境活動

ISO14001 の運用体制図



リスク及び機会への取り組み

自然環境、外部・内部の課題、利害関係者のニーズ及び期待、順守義務、環境側面についてリスクと機会を EMS 委員会で検討し、その管理方法を決定します。

環境教育・訓練

多摩清掃工場の EMS（環境マネジメントシステム）を適切に運用するため、職員等に対する環境に関する知識と能力の向上を目的として、表-1（P44）の環境教育及び訓練を行っています。

表1

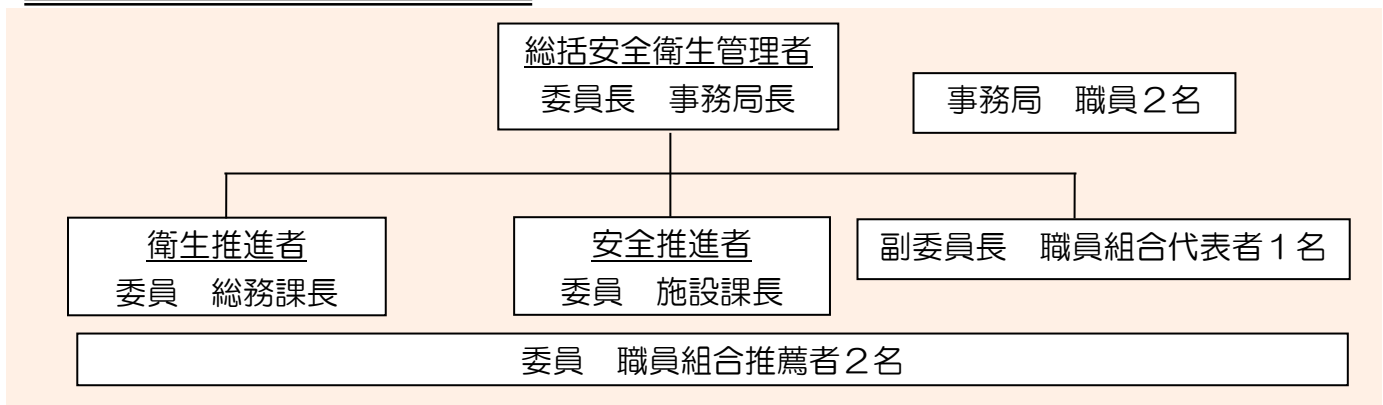
種類	対象者	教育担当	教育・訓練の目的	教育・訓練の内容
一般教育研修	新任 異動	所管課長 各担当者	環境方針及び手順並びに環境マネジメントシステムの要求事項に適合することの重要性を自覚させる。 作業活動による顕在又は潜在の著しい環境影響、及び各人の作業改善による環境上の利点を自覚させる。 環境マネジメントシステムの要求事項との適合を達成するための役割及び責任を自覚させる。 規定された運用手順から逸脱した際に予想される結果を自覚させる。 環境に関連する法令についての概要を知らせる。	E M S に規定する環境方針 環境目標及び環境目的の周知並びに環境保護に関する知識の取得 環境マニキュアル、要項・手順書の内容 廃棄物・リサイクル関係法令 環境関係法令概要
	継続	所管課長 各種講師	環境マニキュアル、要項、手順書の変更事項に対する研修 地球温暖化防止の重要性を自覚させる。 工場運営に係る各種専門事項を習得し、各種業務に活かす。	環境マニキュアル、要項、手順書の改訂版抜粋 地球温暖化対策に係る事項 工場運営に係る各種専門事項
専門教育研修	著しい環境影響の原因となる可能性をもつ作業を行う職員等	所管課長	特定業務等、著しい環境影響の原因となる可能性を持つ作業を行う職員に対する研修	大気汚染防止教育、水質汚濁防止教育、焼却灰等による汚染防止教育、悪臭防止教育、騒音・振動防止教育、測定機器校正教育、分析教育、毒物劇物管理教育、各課操作運用教育、地域連携事業実施教育
緊急事態対応訓練	事故及び緊急時の状態において環境に著しい影響を生じる可能性のある作業を行う職員等	所管課長	環境方針の手順との適合、並びに緊急事態への準備及び対応の要求事項を含む環境マネジメントシステムの要求事項との適合を達成するための役割及び責任を自覚させる。	緊急事態対応教育・訓練 ①□設備故障対応 □薬品漏洩対応 ②地震対応 ③火災対応
法定資格従事者研修	環境保全に係る法定資格を必要とする者	有資格者	環境影響の原因となりうる業務に従事する職員等に対する研修	東京都一種公害防止管理者、廃棄物処理施設技術管理者認定講習、特定化学物質等作業主任者技能講習、危険物取扱者保安講習、ダイオキシン類業務に係る特別教育、有機溶剤作業主任者技能講習
E M S 監査員研修	E M S 監査員の候補者 事務局	所管課長	E M S 監査員を養成するための教育を行う。	E M S 監査を行うために必要な知識の取得を図る。

8. 安全衛生などの取り組み

安全衛生推進委員会

多摩清掃工場の安全と衛生を確保し維持するため、労基法に準じて、安全衛生推進委員会を定期的開催しています。事務局長をはじめ各課長などを加え、必要に応じて受託業者の安全衛生委員会と安全衛生協議会を組織して、充実した委員会となっています。

安全衛生推進委員会の組織図



開催状況

令和元年度の安全衛生推進委員会の状況（毎月1回-第二火曜日に開催）
 定期的（7・1月）に作業環境測定を実施し、作業場の環境向上に役立てています。

月	全国的行事	環境組合活動	実施計画	実施日	評価
4	—	安全衛生推進委員会	定例会（第1回）	4/9	◎
		派遣対象者による安全衛生教育	手選別等	4/10	◎
		作業環境測定	事務室	4/24	◎
		派遣対象者による安全衛生教育	酸欠防止・ダイオキシン類ばく露防止	4/12	◎
		安全衛生に関わる連絡等	安全衛生ニュース（事務局発行）	4/11	◎
		労働時間前による日々の健康管理（腰痛予防等）	朝のラジオ体操（自由参加）	毎日	37%
5	春の交通安全運動 （5/11～20）	安全衛生推進委員会	定例会（第2回）	5/14	◎
		春の交通安全運動に関わる啓発	構成市に依頼文送付	5/7	◎
		安全衛生に関わる連絡等	安全衛生ニュース（事務局発行）	5/15	◎
		労働時間前による日々の健康管理（腰痛予防等）	朝のラジオ体操（自由参加）	毎日	37%
6	全国安全週間 準備期間 （6/1～30）	安全衛生協議会兼安全衛生推進委員会	協議会（第1回）・推進委員会（第3回）	6/11	◎
		全国安全週間に關する啓発	ポスター・ワッペン等	期間中	◎
		安全衛生に関わる連絡等	安全衛生ニュース（事務局発行）	6/20	◎
		作業環境測定	事務室（照度）・炉内	6/20	◎
		労働時間前による日々の健康管理（腰痛予防等）	朝のラジオ体操（自由参加）	毎日	42%
7	全国安全週間 （7/1～7）	全国安全週間に關する啓発	総括安全衛生管理者による訓示	7/1	◎
		安全衛生推進委員会	安全衛生協議会パトロール	7/2	◎
		安全衛生教育	定例会（第4回）	7/9	◎
		職員の健康管理	熱中症予防講習	7/9	○
		安全衛生に関わる連絡等	健康診断	7/23～26	◎
		作業環境測定	安全衛生ニュース（事務局発行）	7/17	◎
		労働時間前による日々の健康管理（腰痛予防等）	焼却棟・不燃粗大棟	7/8～10	◎
8	—	安全衛生推進委員会	朝のラジオ体操（自由参加）	毎日	37%
		作業環境測定	定例会（第5回）	8/15	◎
		安全衛生に関わる連絡等	事務室・炉内	8/20	◎
		労働時間前による日々の健康管理（腰痛予防等）	安全衛生ニュース（事務局発行）	8/15	◎
			朝のラジオ体操（自由参加）	毎日	32%

9	全国労働衛生週間 準備期間 (9/1～30) 秋の交通安全運動 (9/21～30)	安全衛生協議会兼安全衛生推進委員会	協議会（第2回）・推進委員会（第6回）	9/10	◎
		秋の交通安全運動に関わる啓発	構成市に依頼文送付	9/3	◎
		全国労働衛生週間に関わる啓発	ポスター・ワッペン等	期間中	◎
		安全衛生に関わる連絡等	安全衛生ニュース（事務局発行）	9/18	◎
		労働時間前による日々の健康管理（腰痛予防等）	朝のラジオ体操（自由参加）	毎日	47%
10	全国労働衛生週間 (10/1～7)	全国労働衛生週間に関わる啓発	総括安全衛生管理者による訓示	10/1	◎
		安全衛生推進委員会	安全衛生協議会/パトロール	10/1	◎
		安全衛生に関わる連絡等	定例会（第7回）	10/8	◎
		作業環境測定	安全衛生ニュース（事務局発行）	10/17	◎
		労働時間前による日々の健康管理（腰痛予防等）	事務局	10/23	◎
11	—	安全衛生推進委員会	朝のラジオ体操（自由参加）	毎日	26%
		安全衛生に関わる連絡等	定例会（第8回）	11/12	◎
		年末年始無災害運動に関わる啓発	安全衛生ニュース（事務局発行）	11/12	◎
		労働時間前による日々の健康管理（腰痛予防等）	構成市に依頼文送付	11/20	◎
			朝のラジオ体操（自由参加）	毎日	21%
12	年末年始無災害運動 (12/1～) 令和元年度より12/1～	安全衛生教育	救命講習（AED）	12/3	◎
		作業環境測定	炉内	12/9	◎
		安全衛生協議会兼安全衛生推進委員会	協議会（第3回）・推進委員会（第9回）	12/10	◎
		安全衛生教育	メンタルヘルス講習	12/10	◎
		年末年始無災害運動に関わる啓発	総括安全衛生管理者による訓示	12/2	◎
			安全衛生協議会/パトロール	12/17	◎
			ポスター・ワッペン等	期間中	◎
		安全衛生に関わる連絡等	安全衛生ニュース（事務局発行）	12/23	◎
		作業環境測定	事務局（照度）	12/17	◎
1	年末年始無災害運動 (～1/15)	労働時間前による日々の健康管理（腰痛予防等）	朝のラジオ体操（自由参加）	毎日	32%
		安全衛生推進委員会	定例会（第10回）	1/14	◎
		令和2年度標語	標語職員募集	1/14～1/31	◎
		安全衛生に関わる連絡等	安全衛生ニュース（事務局発行）	1/14	◎
		作業環境測定	焼却棟・不燃粗大棟	1/10～1/16	◎
2	—	労働時間前による日々の健康管理（腰痛予防等）	朝のラジオ体操（自由参加）	毎日	26%
		作業環境測定	炉内	2/10	◎
		安全衛生推進委員会	定例会（第11回）	2/12	◎
		令和2年度安全衛生推進計画表（案）	作成	2/12	◎
		安全衛生に関わる連絡等	安全衛生ニュース（事務局発行）	2/12	◎
3	—	作業環境測定	事務局	2/14	◎
		安全衛生協議会兼安全衛生推進委員会	協議会（第4回）・推進委員会（第12回）	3/10	◎
		ダイオキシン類対策委員会報告	会議内容報告（委員長）	3/10	◎
		令和元年度安全衛生推進計画表及び実績	検討評価（委員長に総括依頼）	3/10	◎
		令和2年度標語	表彰	3/19	◎
		安全衛生教育	交通安全講習	3/10	◎
		安全衛生に関わる連絡等	安全衛生ニュース（事務局発行）	3/19	◎
		労働時間前による日々の健康管理（腰痛予防等）	朝のラジオ体操（自由参加）	毎日	37%

※評価の印：◎-実施、×-実施できず、達成率で表示 例 - %、○-当初の予定にはなかったが、追加して実施

多摩清掃工場は、自主防災体制の充実、強化を図るため、多摩市内の各事業所を対象とした自衛消防操法大会に平成 11 年より参加しています。

自衛消防隊

令和元年 10 月 30 日多摩ニュータウン市場で開催された自衛消防操法大会 1 号消火栓の部で、当工場の職員で編成された自衛消防隊が優勝しました。



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆消防訓練風景☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

消防計画・マニュアルによる訓練計画に基づき、平成31年2月26日には、東京消防庁多摩消防署の指導のもと、多摩清掃工場関係職員が一丸となって、消防訓練を行いました。今回は消火器による消火訓練や消火栓体験訓練を行いました。



訓練の様子

消 防 訓 練



9. 中期経営計画ビジョン2022について

令和元年度は、『多摩ニュータウン環境組合中期経営計画「ビジョン2022」』（計画期間：平成30年度（2018年度）～令和4年度（2022年度））の始動の年にあたり、その達成に向けて、確実に取り組むとともに、効率的かつ効果的で、安定した工場運営を維持できるよう事務事業を展開しました。

「環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場」の実現に向けた目標

- 1 安全で安定的な循環型処理の推進
- 2 効率的・効果的な組合運営の推進
- 3 市民理解及び構成市との連携の推進
- 4 次期処理施設に係る検討

目標達成のための12の具体的な取組項目を設定・体系化し、予算・人材を計画的かつ効果的に活用しながら、多岐にわたる対応すべき課題の解決を目指すもので、令和14年度（2032年度）まで運転稼働が可能となった当工場を安定稼働させていくための取組みや次期処理施設に係る検討も含めた計画としています。

第3章 コミュニケーション



1. 環境情報の公開

(1) インターネットにホームページを開設しています。



ホームページ URL

<https://www.tama-seisokojo.or.jp/>

(2) 排ガス状況表示盤

管理棟 1 階の環境組合事務室及びリサイクルセンターのロビーに炉内温度、排ガス中の塩化水素、硫黄酸化物、窒素酸化物、一酸化炭素、ばいじん濃度の計測データを示す電光掲示板があり、常時、現在の状況を知ることができます。



(3) 環境情報コーナー

リサイクルセンターのロビーには、環境情報を集めたコーナーを設置しています。環境に関するわかりやすい提示物を備えています。



(4) たまかんニュース

年2回(1月・7月)、多摩ニュータウン環境組合からのお知らせや、環境測定情報、ごみに関する豆知識などを掲載した広報誌を発行し新聞折り込みしています。情報の積極的開示により、開かれた清掃工場を目指しています。今年9月に最新号(第34号)を88,750部発行しました。



(5) 地元報告会等

毎年、年度末に地元自治会に対して工場の運営状況、各種測定結果を報告※しています。また、令和元年度は、地元自治会等を対象とした清掃施設見学会を実施し、さいたま市桜環境センターを視察しました。

※ 令和元年度の地元報告会は新型コロナウイルス感染症流行の影響で延期しました。



(6) たまかんニュース(地域版)

工場の近況等の情報を積極的に届けるため、清掃工場周辺の約3,300世帯へ年3回程度、環境組合職員が直接ポスティングを行っています。



2. 環境に関して寄せられた意見、要望等

平成31年4月～令和2年3月までの期間で、環境に関して寄せられた意見及び要望等はありませんでした。

3. 施設の見学

多摩清掃工場の施設見学の再開について

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、中止としておりましたが、感染が収束するまでの当面の間、感染予防対策を講じた下記のとりの体制で、試行的に見学を再開いたします。ご不便をおかけしますが、何卒、ご理解とご協力のほどお願いいたします。

1. 再開時期について

- (1) 予約受付開始日
令和2年8月3日(月)
- (2) 施設見学受入開始日
令和2年8月11日(火)

※見学をご希望の場合は必ず1週間前までに事前予約をお願いします。

2. 受け入れ人数等

- (1) 月曜日：原則10名まで、1日1組
- (2) 火～金曜日：原則30名まで、午前1組・午後1組
- (3) 見学可能時間：9：30～16：30（見学開始時間は15時00分までとなります。）
- (4) 所要時間：約1時間30分

3. 対象

団体・個人の方を問わずお申込みいただけます。なお、構成市以外の方の見学や行政視察も受け付けています。

4. 感染予防対策

- (1) 見学には、マスクを着用の上お越しください。
- (2) 発熱者（37.5℃以上）の方については、受け入れをお断りします。
- (3) 見学ツアーは、10人を上限とした班を単位として行います。
（例）30人の場合は、10人単位×3班で見学ツアーを行います。

5. 申込方法

多摩ニュータウン環境組合総務課（TEL：042-374-6331）までお電話でお申込みください。

6. その他

- ・今後の感染状況に応じて、見学体制の変更または見学の受入れを中止する場合があります。
- ・小・中学校が見学にお越しになる場合は、見学時の引率のため、**児童・生徒10名につき教員が原則1名必要**となります。
- ・社会科見学の代替手段として、見学用DVDの貸し出し及びパンフレットの提供を行っております。ご希望の先生方は、多摩ニュータウン環境組合総務課までご連絡ください。

令和元年度の見学者は、総数2,730人となりました。組合主催の「こども清掃工場見学会」「煙突登り」たまかんフェスタに実施する「特別施設見学会」を含む人数となります。

主な内訳

団 体	団体数	人 数
小学校	31	2,298
中学校	2	81
大学	1	15
自治体関係団体	2	109
民間団体	2	24
個人	13	26
環境組合主催	10	177
合 計	61	2,730



平成31年4月～令和2年3月まで

4. 社会的活動

(1) たまかんフェスタ

平成20年度より実施している「たまかんフェスタ」。令和元年度は10月20日（日）に実施しました。（来場者数2,726人）今回も、からきだ菖蒲館「からきだ菖蒲館まつり」、多摩市社会福祉協議会「福祉フェスタ」、大妻女子大学「大妻多摩祭」との4館共同開催となり、天気にも恵まれ合同のスタンプラリーなど大変盛り上がりしました。

また、当日は広報担当特別スタッフ「タマちゃん」とご当地キャラクターが集合して会場を盛り上げてくれました。会場内では、構成3市の燃料電池自動車の展示や地域の企業・団体のPRや飲食物等の販売が行われました。（環境組合を含む16団体）ステージでは、地域連携の一環として、隣接する大妻女子大学のサークル「踊り侍」をはじめ、ご当地アイドル等に出演をしていただきました。（出演者数7団体）環境組合からは、清掃工場主催の特別見学会や煙突登り等を実施し、多くの方に参加していただきました。

ご当地キャラクター集合



ご当地アイドルのパフォーマンス



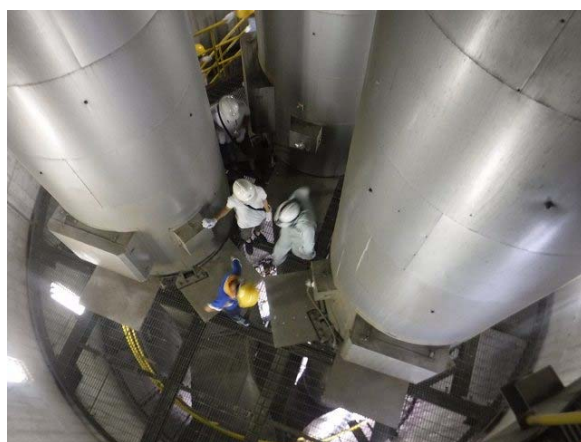
（２）唐木田クリーンアップ作戦

清掃工場付近だけでなく、唐木田駅周辺のクリーン活動も行いながら、地域の方々との交流を目的とした、年末恒例となった「唐木田クリーンアップ作戦」。平成 27 年度からは実行員会方式で地域の方々や事業所と共同で開催し、令和元年度は 109 名の方に参加して頂きました。



（３）夏休みの施設開放イベント

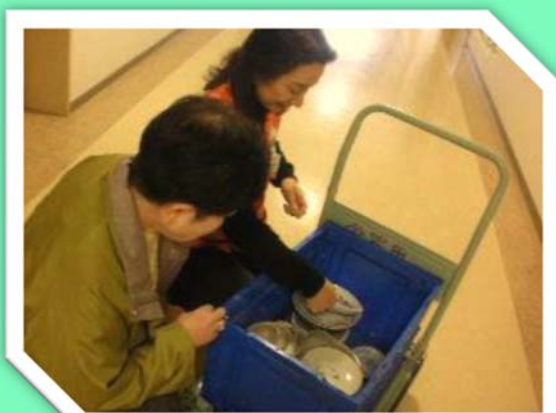
夏休みには地域の子供を対象に煙突登り体験（令和元年 7 月 30 日、7 月 31 日）やこども清掃工場見学会（令和元年 8 月 1 日、8 月 2 日）を開催しました。清掃工場のごみ処理の様子のほか、普段なかなか見ることが出来ない煙突の内部や、頂上からの眺めを見て頂きました。



（４）環境啓発活動

リサイクルセンターでは今年度、以下の教室、イベント等を実施しました。

《陶磁器製食器のリサイクル事業》



構成市の市民の家庭で不用になった陶磁器製食器の回収を行いました。

異物混入を避けるために対面で回収しました。



回収された食器は再び「食器」の原料にするために岐阜県土岐市の粉碎工場に運びました。

この食器は粉碎機で細かく砕いて 1 ミリくらいの砂状にし、新しい食器を作る粘土の原料になります。



リサイクルできる食器・できない食器について展示で紹介しました。

《親子陶芸体験教室》



回収した陶磁器製食器が 20%ほど入った Re 陶土を使った陶芸体験教室を開催しました。親子やきょうだいでペアのはっぱのお皿づくりをしました。

《せともの繕い教室》



陶磁器でできた置物、花びん、食器などの破損を新うるしと接着剤を使って直す講座です。

《シルクサロン クール・コレ》



着物を解いて洋服に仕立て直す講座です。ハイネックブラウスを作りました。

《中学生の職場体験》



町田市・多摩市の中学生の職場体験を受け入れました。

駐輪場の草取りや再生品の清掃や販売等を体験してもらいました。

《エコにこキッズサポーターズクラブ》



センターでボランティア活動をしています。キッズクラブの活動で看板を作成し、センターの植込みに設置しました。

《お花の教室》



花器には鉢皿を使っています。

《さき織り体験教室》



横糸に不用になった布を裂いて作った糸や毛糸を用いたさきおり体験教室を開催しました。

《たまかんフェスタ》



たまかんフェスタに参加しました。今年は雪だるま作りと人力発電を行いました。

《多摩エコ・フェスタ 2020》



多摩清掃工場といっしょに多摩ニュータウン環境組合として出展しています。キッズクラブの活動の一環として参加しました。清掃工場やセンターの展示を見たり、万華鏡づくりに参加したりしました。

《活動発表展示会》



1年間のセンターの主な活動について展示で報告しました。

《からきだ夏祭り》



多摩市から借りたリユース食器を使用した模擬店や、ステージイベントで盛り上がりました。

《くるくるカレンダー》



不要なカレンダーを集めて、必要な人に無料で配布しました。

《エコにこマーケット》



館内エントランスホールで机を使って出店する小さなフリーマーケットです。

《おとなのための工作教室》



毎回異なるテーマで作品を作ります。写真は干支の土鈴づくりのようす。

《かけらアート》



回収した食器を砕いたカケラむを使って鏡の周囲を飾りました。

《工作の時間 “陶芸”》



事前申込み不要、Re 陶土を使って自由に陶芸作品を作ることができます。

《夏休み工作教室 雑紙を知ろう》



雑紙のリサイクルについて学んだあと、広報を使った雑紙袋などを作りました。

《夏休み工作教室 親子電子工作教室》



親子でソーラーライトを作りました。

(5) 各種講座の開催実績

各種講座名と参加人数

(単位：人)

	講座名	参加者数		講座名	参加者数
4月	さき織り体験教室(2回)	21	10月	さき織り体験教室(2回)	17
	お花の教室(2回)	16		お花の教室(2回)	15
	電子工作サロン	18		Tシャツぞうり教室	5
	こうさくの時間“陶芸”	4		おとなのための工作教室	3
5月	Tシャツぞうり教室	3	11月	こうさくの時間“陶芸”	6
	さき織り体験教室(2回)	21		電子工作サロン	7
	お花の教室(2回)	16		電子工作入門サロン	11
	電子工作サロン	11		雪だるまオーナメント	150
	電子工作入門サロン	20		カケラアート	6
	こうさくの時間“陶芸”	7		おとなのための工作教室	3
6月	Tシャツぞうり教室	2	12月	秋のシルクサロンクール・コレ(4回)	23
	さき織り体験教室(2回)	20		さき織り体験教室(2回)	15
	お花の教室(2回)	19		お花の教室(2回)	13
	おとなのための工作教室(2回)	8		せともの縫い体験教室	5
	春のシルクサロンクール・コレ(3回)	12		親子陶芸体験教室	14
	せともの縫い教室	1		Tシャツぞうり教室	4
	電子工作サロン	9		電子工作サロン	7
	電子工作入門サロン	16		電子工作入門サロン	11
	こうさくの時間“陶芸”	2		こうさくの時間“陶芸”	4
7月	Tシャツぞうり教室	3	1月	お花の教室(2回)	17
	さき織り体験教室(2回)	17		おとなのための工作教室	5
	お花の教室(2回)	17		さき織り体験教室(2回)	15
	親子陶芸体験教室	79		Tシャツぞうり教室	2
	おとなのための工作教室	5		電子工作サロン	8
	電子工作サロン	6		電子工作入門サロン	7
	電子工作入門サロン	14		こうさくの時間“陶芸”	5
	こうさくの時間“陶芸”(2回)	97		お花の教室(2回)	15
	こども工作教室	36		おとなのための工作教室	5
8月	お花の教室(2回)	12	2月	さき織り体験教室(2回)	14
	さき織り体験教室	8		Tシャツぞうり教室	5
	電子工作サロン	9		おとなのための工作教室	5
	こうさくの時間“コリ工作”(3回)	58		電子工作サロン	6
	こうさくの時間“陶芸”	2		電子工作入門サロン	7
	電子工作入門サロン	14		こうさくの時間“陶芸”	6
	雑紙を知ろう(2回)	21		お花の教室	8
	親子電子工作教室(2回)	51		さき織り体験教室(2回)	16
	こどもぞうり教室	3		Tシャツぞうり教室	5
9月	さき織り体験教室(2回)	16	3月	せともの縫い教室	8
	お花の教室(2回)	13		電子工作サロン	7
	電子工作サロン	10		電子工作入門サロン	6
	電子工作入門サロン	15		新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	
	こうさくの時間“陶芸”	4			

合計	113講座	1,227人
----	-------	--------

5. 多摩ニュータウン環境組合の事業のあゆみ

昭和 43 年 10 月	東京都は清掃工場建設場所を多摩町落合棚原地区に内定
昭和 43 年 11 月	東京都、建設計画を地元に提示
昭和 44 年 4 月	落合ごみ焼却場反対連合協議会、多摩町議会に設置反対の請願提出
昭和 44 年 6 月	東京都、多摩町及び反対連合協議会間で地元要望を取り入れた覚書締結
昭和 44 年 11 月	関係市（八王子市、町田市、多摩市、稲城市）及び新住施行者間で、設置場所、規模、都市計画決定等について覚書締結
昭和 46 年 7 月	多摩清掃工場建設着工
昭和 46 年 11 月	多摩市と新住施行者間で、清掃工場建設に伴う事業費の負担方法、負担額等について協定書締結
昭和 48 年 4 月	多摩清掃工場竣工・稼働 300 t／日（150 t／日×2 炉）
昭和 62 年 3 月	旧粗大ごみ処理施設竣工・稼働 50 t／5 h
平成 5 年 4 月	1 日付で八王子市・町田市・多摩市で構成する多摩ニュータウン環境組合設立を都知事が認可
平成 6 年 7 月	多摩清掃工場二期施設建設着工（焼却棟）
平成 10 年 3 月	焼却棟竣工 400 t／日（200 t／日×2 炉）
平成 11 年 7 月	不燃・粗大ごみ処理棟及びリサイクルセンター建設着工
平成 12 年 2 月	管理棟建設着工
平成 14 年 3 月	不燃・粗大ごみ処理施設、リサイクルセンター、管理棟竣工・稼働 ・不燃系 80 t／5 h（40 t／5 h×2 系列） ・粗大系 10 t／5 h（5 t／5 h×2 系列）
平成 15 年 4 月	町田市小山ヶ丘地区のごみ搬入開始
平成 16 年 10 月	家庭系ごみ有料化・戸別収集開始（八王子市）
平成 17 年 10 月	家庭系ごみ有料化・戸別収集開始（町田市）
平成 18 年 7 月	東京たま広域資源循環組合のエコセメント化施設本格稼働
平成 19 年 4 月	調布市の可燃ごみ搬入（多摩地域ごみ処理広域支援体制）
～24 年 11 月	
平成 20 年 4 月	家庭系ごみ有料化・プラスチック収集開始（多摩市）
平成 22 年 7 月	多摩川衛生組合の可燃ごみ搬入（多摩地域ごみ処理広域支援体制）
平成 22 年 10 月	八王子市拡大区域の可燃ごみ搬入開始・プラスチック収集開始（八王子市）
平成 23 年 12 月	小金井市の可燃ごみ搬入（多摩地域ごみ処理広域支援体制）
～24 年 3 月	
平成 24 年 7 月	東日本大震災で発生した宮城県女川町の災害廃棄物を搬入
～25 年 3 月	
平成 27 年 4 月	不燃残渣の資源化（熱回収）による埋立「ゼロ」を実施
平成 28 年 4 月	町田市小山ヶ丘地区の事業系ごみ搬入開始
平成 28 年 6 月	不燃ごみを八王子市・町田市の施設で応援処理（不燃施設改造工事に伴う施設の停止）
平成 30 年 10 月	多摩ニュータウン環境組合設立 25 周年記念式典開催
令和 元 年 12 月	町田市上小山田町山中地区からの粗大ごみ持込み受入れ開始

・案内図



環境報告書2020

令和2年10月発行

編集・発行

多摩ニュータウン環境組合 多摩清掃工場

〒206-0035

東京都多摩市唐木田二丁目1番地1

TEL 042-374-6331

FAX 042-337-5061

E-mail info@tama-seisokojo.or.jp

この「環境報告書」はホームページに掲載しています！

ホームページ <https://www.tama-seisokojo.or.jp/>

トップページ>環境情報>環境報告書>環境報告書2020

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください

「多摩清掃工場 環境報告書」をお読みいただきありがとうございました。まだまだ内容が不十分な点も多いかと思えます。

つきましては、みなさまの貴重なご意見・ご感想を今後の報告書作成の参考にさせていただきたいと思えます。お手数ですが、本紙をご記入の上、下記までお送りいただきますようお願いいたします。

多摩清掃工場 施設課あて
FAX：042－337－5061

1. 本報告書をどちらでお知りになりましたか。

2. 本報告書をお読みになって、感想はいかがですか。

(1) わかりやすい (2) 普通 (3) わかりにくい

3. 本報告書の内容について、感想はいかがですか。

(1) 充実している (2) 普通 (3) ものたりない

4. 本報告書の内容について、お気づきの点がありましたらご記入ください。

5. 本工場の環境配慮の取組について、ご感想はいかがですか。

(1) かなり評価できる (2) 評価できる (3) 普通
(4) あまり評価できない (5) 評価できない

6. その他自由なご意見・ご感想などございましたらお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。差し支えなければ以下にもご記入ください。

性別	男・女	年齢	歳	
お名前		ご連絡先電話番号		
お立場	1 近隣に在住 2 行政関係 3 企業の環境担当者 4 その他			